

平成26年度 新潟県立看護大学 自己点検評価報告書

—専任教員の活動業績—
—各種委員会等の活動報告—

平成27年3月



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

専任教員の活動業績

1 研究, 社会及び学内教育活動業績

(1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」について, 平成26年4月から27年3月までの12ヶ月間の期間について, 本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動(業績)の一覧である。

- ア 26年12月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。
- イ 原則として, 各教員から提出されたものを修正せず掲載する。
- ウ 掲載の順番は領域順とし, 個人は科目群の職位順, ついで採用順に掲載する。
- エ 掲載に際して職位名等は入れず, 氏名のみの表示とする。
- オ 平成26年4月以降12月現在までに着任した専任教員の業績についても, ウに従って掲載する。

(2) 活動業績掲載順

【共通科目】	
I 人間環境科学領域 ……………p 4	渡邊 千春
橋本 明浩	竹原 則子
中村 博生	石原 千晶
藤田 尚	石岡 幸恵
徐 淑子	中澤 紀代子
渡辺 弘之	天谷 まり子
永吉 雅人	山田 真衣
エルダトン・サイモン	北村 千章
II 生物医学領域 …………… p 14	高塚 麻由
関谷 伸一	風間 みえ
境原 三津夫	鬼形 充智
野村 憲一	高橋 祥子
【専門科目】	V 地域生活看護学領域 …………… p 53
III 基礎看護学領域 …………… p 18	平澤 則子
坪倉 繁美	小泉 美佐子
水口 陽子	原 等子
岡村 典子	飯吉 令枝
川島 良子	田口 玲子
谷内田 潤子	高林 知佳子
内藤 みほ	後田 穰
IV 臨床看護学領域 …………… p 26	片平 伸子
加城 貴美子	加賀美 亜矢子
石田 和子	安藤 亮
高柳 智子	井上 智代
酒井 禎子	野口 裕子
山田 正実	真貝 早悠里
大久保 明子	瀧澤 ひかる
高島 葉子	久保野 裕子
飯田 智恵	【学 長】
小林 綾子	渡邊 隆 …………… p 78

橋本 明浩

【研究活動】

1. 原著論文
なし

2. その他の論文
なし

3. 著書
なし

4. 学会発表

Akihiro Hashimoto, N. Hara, C. Takabayashi, C. Iida, A. Kagami, K. Nakazawa, C. Ishihara, M. Takatuska, R. Kawashima, and M. Onigata (2015,2.6) Inhibiting E-learning System for Nurses Living in Niigata Prefecture, The 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, Taipei, Taiwan.

5. その他の研究活動

橋本(2014) 大学の顔は変わっても, 2014.11.01, 千葉大学理学部講演会

【学会等における活動】

- ・地域保健政策・情報システム研究会
- ・統計学教育研究会(旧統計研究会)
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本看護科学学会

【社会活動】

- ・上越市ケーブルテレビ施設の譲渡に関する意見書提出員
- ・看護研究交流センター公開講座 「看護研究のためのEXCEL統計解析入門」 2014.9.26(金)
- ・看護研究交流センター公開講座 「インターネット検索技術入門」 2014.9.27(土)
- ・看護研究交流センター公開講座 「院内マニュアル 見易いマニュアル作成入門」 2014.9.27(土)

【学内教育活動】

- (1) 学部：情報科学, 情報処理演習, 基礎ゼミナール3, 保健統計学演習
- (2) 大学院：看護情報統計学

【学内委員会等の活動】

- ・情報ネットワーク特別委員会(委員長)
- ・図書委員会(副委員長)
- ・看護研究交流センター看護職学習支援部門(部門長)
- ・新潟県立看護大学情報管理者(主)

【外部資金獲得】

なし

中村 博生

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

中村博生, Simon J. Elderton (2014) : Paragraph Writing for Nursing Students Aiming at Academic Writing – From Controlling Idea to Paragraph – アカデミック・ライティングをめざす看護学生のためのパラグラフ・ライティングーコントローリング・アイデアからパラグラフまでー 考古堂書店, 新潟

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・関東甲信越英語教育学会 理事

【社会活動】

- ・上越市子どもの権利委員会委員

【学内教育活動】

- (1) 学部 : 英語ライティングⅠ, 英語ライティングⅡ, 英語ライティングⅢ, 英語ライティングⅣ, 英語リーディングⅠ, 英語リーディングⅡ, 英語リーディングⅢ, 基礎ゼミナール (TOEIC), ふれあい実習
- (2) 大学院 : 文献講読

【学内委員会等の活動】

- ・入試・広報委員会 (委員長)
- ・入試問題出題委員会 (委員長)
- ・入試実施本部 (副本部長)
- ・国際交流委員会
- ・法人ワーキンググループ

【外部資金獲得】

なし

藤田 尚

【研究活動】

1. 原著論文

Fujita, H. (2014) : Health status in early modern Somali people from their skeletal remains. *International Journal of Archaeology*, 2(3): 1-5. Published online December 15, 2014 doi: 10.11648/j.ija.20140203.11 (査読有)

Fujita, H. (2014) : Prolonged retention of primary teeth and TMD from the archaeological sample in the Edo Japanese. *European Journal of Preventive Medicine*, 2(6): 110-113. Published online December 29, 2014 doi: 10.11648/j.ejpm.20140206.16 (査読有)

2. その他論文

藤田 尚 (2014) : 「Abydos遺跡出土人骨の歯科疾患及び頭蓋に見られたストレスマーカーについて」『歯の人類学分科会平成25年度シンポジウム』「歯の古人骨からわかる病気と衛生をめぐって」 *Anthropological Science (Japanese Series)*, 122(1), 55-61. (査読無)

3. 著書

Fujita, H. (2015) : Oral Health from Dental Paleopathology (Chapter 23), In: *Emerging Trends in Oral Health Sciences and Dentistry*. M. S. Viridi (edt), INTEC, Croacia, pp. 525-543. ISBN: 978-953-51-2024-7

4. 学会発表

Fujita, H. (May 15-18, 2014) : The number of missing teeth in people of Japan from archaeological samples. IUAES 2014, Makuhari Messe, Chiba, Japan, P. 180. (パネリスト)

Fujita, H. (Jun 6-10, 2014) : Paleohealth of Jomon Peoples in Japan from the Prevalence of Cribra Orbitalia. "New Perspectives of Paleopathology in East Asia" Sixth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Ulaanbaatar, Mongolia, P. 48. (ファーストセッションオーガナイザー&パネリスト)

藤田 尚 (2014年) : 「自然人類学的資料から老年学への応用を目指して」第9回日本応用老年学会, 桜美林大学.

Fujita, H. (Nov. 27, 2014) : Dental paleopathology in Japan and Korea. Forum for Anthropology and Paleopathology in East Asia. Waseda University International Conference Center, Tokyo, Japan, (会頭&パネリスト)

5. 講演

藤田 尚 : 「漢半島から見た縄文人・弥生人」新潟県立歴史博物館企画展記念講演会, 平成26年10月5日

【学会等における活動】

- ・日本旧石器学会幹事 (会誌編集委員・研究企画委員)
- ・日本老年歯科医学会代議員
- ・日本老年歯科医学会第23回日本老年歯科医学会優秀ポスター発表賞選考委員
- ・日本老年歯科医学会専門医認定試験問題作成委員
- ・日本人類学会評議員

【社会活動】

- ・英国ケンブリッジ大学リバーヒュームセンター・Duckworth Laboratory招聘研究員
- ・東京大学大学院理学系研究科客員共同研究員
- ・地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター協力研究員
- ・早稲田大学文学学術院非常勤講師
- ・早稲田大学人間科学学術院非常勤講師
- ・早稲田大学大学院人間科学研究科非常勤講師

- ・北原学院歯科衛生専門学校非常勤講師
- ・各種International JournalのInvitation Reviewer
- ・Editorial manager in “Anthropological Science”
- ・Editorial manager in “Anatomical Science International”
- ・新潟県歴史博物館展示監修者

【学内教育活動】

- (1) 学部：自然人類学，ふれあい実習，基礎ゼミナール7
- (2) 大学院：人類学特論

【学内委員会等の活動】

- ・倫理委員会
- ・図書委員会

【外部資金獲得】

「韓国出土古人骨への自然人類学的総合アプローチ」日本学術振興会（科研費・基盤研究B）代表
課題番号：24405020，2014年度交付金：2,990,000円

徐 淑子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

徐淑子, 池田光穂(2015): 健康教育における〈健康認識の個人化〉をうながす実践について,
Communication-Design, 12: 23-38. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

徐淑子他(2014年10月3日): iPhoneアプリを利用した当事者向け情報媒体の作成, 平成26年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 第36回アルコール問題関連学会, パシフィコ横浜.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・第36回アルコール問題関連学会一般演題ポスター「治療プログラムⅡ」座長, (2014年10月3日)
- ・女性とアディクション研究会・代表発起人
- ・日本保健医療社会学会
- ・日本保健医療行動科学会
- ・日本健康教育学会
- ・日本ヘルス・コミュニケーション学会
- ・日本アルコール問題関連学会
- ・日本エイズ学会
- ・国際社会学会RC49精神保健社会学部会
- ・国際ヘルスプロモーション健康教育連盟

【社会活動】

- ・iPhoneアプリ「Recovery～女性のための無料アディクションガイドMAP～」制作・公表 (女性とアディクション研究会).
- ・北里保健衛生専門学院非常勤講師
- ・桐生大学非常勤講師
- ・日本精神保健福祉士協会

【学内教育活動】

- (1) 学部: 基礎ゼミナール2, 保健・医療行動科学
- (2) 大学院: 健康社会学

【学内委員会等の活動】

- ・入学小委員会
- ・FD委員会
- ・研究推進委員会

【外部資金獲得】

なし

渡辺 弘之

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

渡辺弘之（2014年9月29日）ベトナムのハンセン病（元）患者が参加する自立支援プログラムの現状と課題—フォーカスグループインタビューの結果より—，第 87 回日本ハンセン病学会総会・学術大会，所沢市

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

- (1) 学部：基礎ゼミナール，ふれあい実習，社会学，社会福祉概論，地域社会と住民組織
- (2) 大学院：老年看護学特論 I

【学内委員会等の活動】

- ・国際交流委員会
- ・国試対策・就職委員会
- ・ハラスメント防止委員会

【外部資金獲得】

文部科学省科学研究費基盤研究C，ベトナムにおける社会復帰が困難なハンセン病（元）患者のQOLと生活支援の研究（課題番号24530705，平成24－26）

永吉 雅人

【研究活動】

1. 原著論文

M. Nagayoshi, H. Murao and H. Tamaki(2014): An Entropy-Guided Co-Construction Method of State and Action Spaces in Reinforcement Learning, Lecture Notes in Computer Science (LNCS), 8834 : 119-126, Springer.(査読有)

2. その他の論文

小林邦和, 永吉雅人, 鈴木拓央 (2015) : TC1 : 機械学習における現状の課題と今後の展開, 電気学会 電子・情報・システム部門 News Letter 2015年1月号, 9. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

永吉雅人, 村尾元, 玉置久 (2014.9.3) : 状態・行動空間の適応的共構成のためのエントロピー駆動型強化学習, 平成26年電気学会電子・情報・システム部門大会, 6-11 (TC1-2(on CD-ROM)), 松江. (査読無)

永吉雅人, 榊原一紀 (2014.9.29) : 強化学習によるAGV経路計画における交渉ルールの獲得, スケジューリング・シンポジウム2014講演論文集, 87-91, 富山. (査読無)

永吉雅人, 榊原一紀 (2014.11.22) : 強化学習によるAGV経路計画の交渉ルール獲得 : 状態空間構成の検討, 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会, 1062-1065(SS22-1), 岡山. (査読無)

永吉雅人, 榊原一紀, 玉置久 (2014.12.7) : 強化学習によるAGV経路計画の交渉ルール獲得方法の汎用性に関する検討, 電気学会システム研究会, 23-27(ST-14-31), 大洗. (査読無)

Nagayoshi, M., H. Murao and H. Tamaki(2014) : An Entropy-Guided Co-Construction Method of State and Action Spaces in Reinforcement Learning, Proc. of The 21st International Conference on Neural Information Processing (ICONIP2014), 51, クチン (マレーシア) . (査読有)

永吉雅人, 榊原一紀, 玉置久 (2015.1.20) : 強化学習によるAGV経路計画の交渉ルール獲得方法の汎用性に関する検討, 電気学会システム研究会優秀論文発表会(兼 C部門研究会奨励賞授賞候補者選考会), 東京. (査読無)

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

1. 学会

- ・システム制御情報学会
- ・電気学会
- ・計測自動制御学会
- ・遺伝看護学会

2. 委員会

- ・電気学会 電子・情報・システム部門 システム工学技術委員会 学習アルゴリズムの高度化を指向した機械学習技術協同研究委員会 幹事
- ・計測自動制御学会 システム・情報部門 運営委員会 庶務幹事

3. 査読

- ・2014.4 : 電気学会 C部門誌
- ・2014.6 : 2015 IEEE 4th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2015) 3 papers

4. 座長等

- ・2014.9.3：電気学会電子・情報・システム部門大会 TC1 機械学習技術における現状の課題と今後の展開 座長 第2部
- ・2014.9.29：スケジュールリング・シンポジウム2014 OS2 不確実性と適応・学習 オーガナイザ&座長
- ・2014.11.3：The 21st International Conference on Neural Information Processing (ICONIP2014)MoN3-1 Neural Networks and Learning Systems: Theory and Design 1 chair
- ・2014.11.22：システム・情報部門学術講演会2014 SS22 スケジュールリングと最適化 コーディネーター(16:20-18:30)
- ・2014.12.7 電気学会電子・情報・システム部門システム研究会 機械学習研究の最新動向 セッション2A 座長

【社会活動】

- ・NPO法人 関川水辺クラブ 会員および後援（新潟県立看護大学水研究サークル顧問として）
- ・新潟経営大学 非常勤講師

【学内教育活動】

- (1) 学部：情報処理演習，情報科学，ふれあい実習（コーディネータ代表），基礎ゼミナール，疫学，保健統計演習
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・情報ネットワーク特別委員会（副委員長）
- ・情報ネットワーク実行部会（部会長）
- ・看護研究交流センター 特別研究部門（部門長）
- ・看護研究交流センター 特別研究部門 卒業生支援グループメンバー
- ・学生委員会
- ・11期生(平成24年入学生) 学年担任
- ・ハラスメント相談員
- ・サークル顧問
 1. (ア) 水研究サークル
 2. (イ) ソフトテニスサークル
 3. (ウ) バスケットボールサークル

【外部資金獲得】

立石科学技術振興財団 国際交流（国際会議発表）助成金（204千円）（登録番号：2042113）

Simon Elderton (エルダトン・サイモン)

【研究活動】

1. 原著論文
なし

2. その他の論文
なし

3. 著書

中村博生, Simon J. H. Elderton (共編著) (2014) : Paragraph Writing for Nursing Students
Aiming at Academic Writing, 考古堂, 新潟市

4. 学会発表
なし

5. その他の研究活動

Simon Elderton 新潟県立看護大学の多くの教員の多数の研究の英文要旨等の翻訳 (和英)

【学会等における活動】

- ・ JALT (全国語学教育学会) (所属SIG : PRAG, CALL, CUE, Bilingualism) 会員
- ・ 日本生命倫理学会
- ・ 日本保健科学学会
- ・ 日本遺伝看護学会
- ・ JETAA (JETプログラム同窓協会) (関東甲信越部)
- ・ T-E-GETPORA会 (上越小学校英語担当教員の会)

【社会活動】

- ・ 22 Heart Advisor
- ・ 私立上越高等学校入学試験英語出題コンサルタント
- ・ 上越教育大学 非常勤講師
(担当した授業科目名 : コミュニケーション英語 A 1 (B 1 , B 2)
コミュニケーション英語 A 1 (D 1 , D 2)
コミュニケーション英語 A 2 (A 3 , A 4)

【学内教育活動】

- (1) 学部 : 英語コミュニケーション I A , 英語コミュニケーション I B , 英語コミュニケーション II A , 英語コミュニケーション II B , 英語コミュニケーション III , 英語コミュニケーション IV , 英語リーディング IV , 基礎ゼミナール (エッセイ・ライティング) , ふれあい実習
- (2) 大学院 : なし

【学内委員会等の活動】

- ・ 学生委員会
- ・ 国際交流委員会
- ・ 平成27年度 推薦・社会人入学試験出題委員会
- ・ 平成27年度 大学院入学試験出題委員会
- ・ ふれあい実習コーディネーター
- ・ 看護研究交流センター特別研究部門 卒業生支援グループメンバー
- ・ 新潟県立看護大学概要 (Outline of Niigata College of Nursing) 英語翻訳

【外部資金獲得】

水澤久恵(研究代表者), Simon Elderton (研究協力者) 看護専門職の「倫理的価値」概念の創出と、それに基づく倫理的評価尺度の開発, 基盤研究(C) 課題番号:23593158, 2011年度 - 2014年度

ブラウン アイヴァン(研究代表者) Simon Elderton (研究分担者) Creating a corpus of English spoken as a lingua franca between Japanese and cultural others: For the future purpose of developing authentic materials for conversation and intercultural training, 基盤研究(C) 課題番号:26370659, 2014年度 - 2017年度

関谷 伸一

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

関谷伸一, 田島木綿子, 山田 格 (平成26年5月25日): イルカの反回神経は何をひっかけて反転するか? 第25回日本セトロジー研究会, 松山市

関谷伸一 (平成26年6月5日): 霊長類の深腓骨神経の足背分布に関する比較解剖, 第30回日本霊長類学会, 大阪市

Sekiya, S., Tajima, Y., Yamada, K. T. (平成27年3月23日) What does the recurrent laryngeal nerve of dolphins curve around?, 第120回日本解剖学会, 神戸市

5. その他の研究活動

国立科学博物館にてコビレゴンドウクジラの解剖 (平成26年7月24～26日)

京都大学霊長類研究所にてチンパンジーの解剖 (平成26年7月31日～8月2日)

第8回「肉眼解剖学セミナー新潟」に参加 (日本歯科大新潟生命歯学部にて平成26年8月11日～23日)

国立科学博物館にてコビレゴンドウクジラの解剖 (平成26年11月27～29日)

【学会等における活動】

- ・日本魚類学会
- ・日本動物学会
- ・日本解剖学会
- ・日本海セトロジー研究会
- ・日本霊長類学会
- ・人類形態科学研究会
- ・コ・メディカル形態機能学会
- ・American Association of Anatomists

【社会活動】

第28回サイエンスカフェ上越にて講演. 演題「海岸に漂着したイルカが教えてくれること」 (平成27年3月28日)

【学内教育活動】

- (1) 学部: 生物学, 形態機能学Ⅰ, 形態機能学Ⅱ, 基礎ゼミナール, ふれあい実習
- (2) 大学院: 形態機能学特論

【学内委員会等の活動】

- ・図書館長
- ・図書委員会 (委員長)
- ・学生委員会 (副委員長)
- ・紀要委員会
- ・教務委員会
- ・自己点検自己評価委員会
- ・情報ネットワーク特別委員会

・法人WG

【外部資金獲得】

平成26年度 京都大学霊長類研究所 共同利用研究 一般個人研究
研究テーマ：霊長類腓腹神経の比較解剖学的研究（課題番号：2014- B-36）
獲得研究費：106,000 円

境原 三津夫

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

境原三津夫, 櫻井信人(2014年6月27日): 精神障害者が関わる殺人事件を防ぐには
—起訴事例の分析からみえるもの—, 第3回日本精神保健福祉学会, 名古屋市

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本産科婦人科学会 (専門医)
- ・日本周産期・新生児医学会
- ・日本補完代替医療学会 (学識医)
- ・日本児童青年精神医学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本セーフティプロモーション学会

【社会活動】

- ・平成18年4月～現在 金沢医科大学非常勤講師
- ・平成18年～現在 医療法人和光会光病院非常勤医師 (地域医療支援活動)
- ・平成19年～現在 県北医療センター高萩協同病院非常勤医師 (地域医療支援活動)
- ・平成25年11月～現在 上越医師会子宮がん検診 (地域医療支援活動)
- ・平成26年7月12日 上越教育大学・新潟県立看護大学連携講座コーディネーター

【学内教育活動】

- (1) 学部: 臨床病態学Ⅰ・Ⅱ, 基礎ゼミナール, ふれあい実習, 母性看護学Ⅱ, 助産学Ⅱ
- (2) 大学院: 病態治療学

【学内委員会等の活動】

- ・倫理委員会 (委員長)
- ・国際交流委員会 (委員長)
- ・ハラスメント防止委員会 (副委員長)
- ・学校医
- ・共通科目系長
- ・看護研究交流センター先駆的学習支援部門員

【外部資金獲得】

医療法人社団淳心会より個人研究費寄付 50万円

野村 憲一

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

野村憲一 (2014) : 「妊婦体験ジャケット装着時における階段幅が心拍数に与える影響」平成26年度新潟母性衛生学会総会, 新潟

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

- (1) 学部：形態機能学Ⅰ，形態機能学Ⅱ，臨床病態学，臨床生化学，基礎ゼミナール，ふれあい実習
- (2) 大学院：がん看護学特論

【学内委員会等の活動】

- ・教務委員会
- ・研究科委員会
- ・教育研究審議会
- ・FD委員会
- ・倫理委員会
- ・研究推進委員会
- ・入試・広報委員会
- ・看護研究交流センター特別研究部門 地域政策課題,

【外部資金獲得】

なし

坪倉 繁美

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

阿部志真, 佐藤順子, 秋山啓子, 坪倉繁美 (2014) : 新潟県看護教員養成講習会における e ラーニング導入の経緯と実際－e ラーニング活用報告と今後の展望－, 看護教育, 55(8), 772-777. (査読無)

長野県健康福祉部医療推進課 (2015.3) 検討会座長 坪倉繁美 ; 平成26年度看護人材の確保・定着に係る検討会報告, 長野県. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

野口裕子, 坪倉繁美 (2014年11月) ; 地震災害後健康被害を防ぐための保健師と住民との間のリスクコミュニケーション, 日本公衆衛生学会, 栃木県.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・第45回日本看護学会「教育学会」抄録選考委員長
- ・平成26年度日本看護学会－看護教育－論文選考委員
- ・日本看護研究学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本医療教授システム学会
- ・日本公共政策学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本健康医学会
- ・新潟看護ケア研究学会 (監事)

【社会活動】

(1) 検討会等の委員

- ・長野県 看護人材の確保・定着に係る検討会委員・座長 (平成25年4月～平成27年3月)
- ・第45回日本看護学会「教育学会」学会準備委員・抄録選考委員長 (平成25年7月～平成26年9月)
- ・平成26年度新潟労災病院 倫理委員会委員
- ・平成26年度新潟労災病院 医学系研究利益相反管理委員

(2) 講師

- ・兵庫県専任教員養成講習会（テーマ：看護教育論，平成26年4月～5月）
- ・福島県看護協会 ジェネラリスト育成の教育研修会
（テーマ：倫理的ジレンマの対応，平成26年7月）
- ・新潟県再就職支援講習会（テーマ：最新の医療情報，看護の動向，平成26年8月）
- ・新潟県看護協会 上越支部 看護職員実務研修
（テーマ：看護倫理ー共に考える倫理ー，平成26年9月）
- ・国立保健医療科学院 公衆衛生看護管理者研修
（テーマ：人材育成に必要な管理者としての能力，平成26年11月）
- ・新潟労災病院看護部教育研修（テーマ：看護倫理，平成26年11～12月）
- ・新潟県立新潟西高等学校 医療講演会
（テーマ：現在の医療の課題と展望，平成26年12月）
- ・糸魚川総合病院 師長・主任合同研修
（テーマ：人材育成・定着ー選ばれる組織であるためにー，平成27年1月）

【学内教育活動】

- (1) 学部：看護管理，看護行政論，看護倫理，総合実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院：看護政策論，看護教育学，看護倫理特論，看護学研究法，看護管理学特論，看護管理学援助論Ⅰ，看護管理学援助論Ⅱ，看護管理学特別演習，看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

- ・自己点検評価特別委員会
- ・外部評価特別委員会
- ・入学小委員会（委員長）
- ・教学小委員会
- ・先駆的学習支援部門（部門長）

【外部資金獲得】

高林知佳子，坪倉繁美，文部科学省科学研究費助成事業（基盤C 平成26年度～28年度）；介護しながら働く女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトの規定要因と課題。

水口 陽子

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
なし
4. 学会発表
なし
5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

- ・ ナイチンゲール研究学会
- ・ 日本看護科学学会

【社会活動】

- ・ 新潟県立看護大学看護研究交流センターの特別研究部門のメンバーでメディカルグリーンツーリズムとして妙高市と連携して実施した「みょうこうメディカルツアー」において、研究的取り組みを行った（2014年10月16日）。

【学内教育活動】

- (1) 学部：看護学概論，看護技術論，基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護技術演習Ⅱ，基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習
- (2) 大学院：看護理論，看護学研究法，基礎看護学特論，看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

- ・ FD委員会（委員長）
- ・ 教務委員会
- ・ 倫理委員会
- ・ 教学小委員会
- ・ 看護研究交流センター特別研究部門

【外部資金獲得】

- ・ 研究代表者：水口陽子：科学研究費補助金（平成25～27年度），基盤研究(C)，「看護学生の生活調整能力育成のための食生活モニタリングを用いた学習教材の開発」（継続）

岡村 典子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 飯吉令枝, 加賀美亜矢子, 小林綾子, 山田真衣, 後田穰, 岡村典子, 高塚麻由, 河野優子, 菊地美帆, 櫻井信人 (2015): 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要,4,12-16. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

(1) 所属学会

- ・日本看護科学学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本看護技術学会
- ・仏教看護・ビハーラ学会
- ・日本カウンセリング学会
- ・日本心身医学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・東京医科歯科大学医学部お茶の水医学会
- ・聖路加看護学会
- ・北関東医学会

(2) その他の学会活動

- ・公益社団法人日本看護協会, 「平成26年度第45回日本看護学会－看護教育－学術集会」抄録選考委員

【社会活動】

- ・静岡がんセンター看護部主催, 「卒後3年目 看護過程研修」講師, 2014年6月
- ・新潟県立中央病院看護部主催, スキルI研修「看護理論にふれ自己の看護観を深める」講師, 2014年6月
- ・新潟県「准看護師試験委員」, 2014年7月1日～
- ・新潟県厚生連主催, 「看護教育研修Ⅲ リーダーシップ研修」講師, 2014年7月
- ・新潟県看護職員, 「臨地実習指導者養成講習会」講師, 「看護における人間関係論」担当, 2014年8月
- ・新潟県立中央病院看護部「教育アドバイザー」, 2014年11月～
- ・静岡がんセンター看護部主催, 「卒後2年目 看護過程研修」講師, 2015年1月

【学内教育活動】

- (1) 学部: 看護学概論, 看護技術論, 基礎看護学演習Ⅰ, 基礎看護学演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習
- (2) 大学院: 基礎看護学援助論Ⅰ, 基礎看護学援助論Ⅱ, 基礎看護学特別演習

【学内委員会等の活動】

- ・国際交流委員会（副委員長）
- ・ハラスメント防止特別委員会
- ・衛生委員会
- ・看護交流センター地域課題研究開発部門
- ・実習委員会
- ・茶道サークル顧問

【外部資金獲得】

- ・岡村典子（研究代表者）：中堅看護師の就業継続に向けた管理者向け支援習得プログラムとアウトカム指標の作成，基盤研究（C），平成25年度～平成27年度，文部科学省科学研究費研究助成課題（課題番号25463322）

川島 良子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

Akihiro HASHIMOTO, Naoko HARA, Chikako TAKABAYASHI, Chie IIDA, Ayako KAGAMI, Kiyoko NAKAZAWA, Chiaki ISHIHARA, Mayu TAKATSUKA, Ryoko KAWASHIMA, Mitsutoshi ONIGATA.(2015,2.6) "Study on factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata Prefecture", 第18回 EAFON,台北,台湾(台湾大学).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

(1) 学部：基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護技術演習Ⅱ，看護技術論

(2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

・入試・広報委員会

【外部資金獲得】

なし

谷内田 潤子

【研究活動】

1 原著論文
なし

2 その他の論文
なし

3 著書
なし

4. 学会発表

谷内田潤子, 長岡敦子, 谷長行, (2014年5月): 糖尿病療養中に大腸がんに罹患した患者の体験, 日本糖尿病学会, 大阪.

大野恵子, 谷長行, 谷内田潤子, 高橋祐子, 佐々木菜穂, 他6名, (2014年5月): がん専門糖尿病教育チームによるがん治療糖尿病患者への支援, 日本糖尿病学会, 大阪.

山下弘毅, 吉野真樹, 佐々木菜穂, 谷内田潤子, 谷長行, (2014年5月): ステロイド含有がん化学療法時のインスリン治療工夫による血糖値の変動の検討, 日本糖尿病学会, 大阪.

5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

・日本慢性看護学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

- (1) 学部: 看護技術論, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院: なし

【学内委員会等の活動】

・国際交流委員会
・FD委員会

【外部資金獲得】

なし

内藤 みほ

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
なし
4. 学会発表
なし
5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本死の臨床研究会
- ・仏教看護ビハーラ学会
- ・日本臨床倫理学会
- ・新潟がん看護研究会
- ・日本緩和医療学会

【社会活動】

- ・特別養護老人ホームよねやまの里 「感染症講義・演習」講師 2014年10月

【学内教育活動】

- (1) 学部：基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護技術演習Ⅱ，基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・看護研究交流センター 地域社会貢献部門
- ・災害時看護・支援ワーキング

【外部資金獲得】

なし

加城 貴美子

【研究活動】

1. 原著論文

加城貴美子, 塚本博之, 釜中明 (2014) 幼児の足趾の状態, 靴の医学, 28 (2), 115-122.

塚本博之, 加城貴美子, 梶山日出子, 相馬はつ美, 望月みやび, 深澤麻実, 萩山みずほ (2015) 靴と下駄を履いた後の集中力に関する調査—幼稚園児の「○×作業」を比較して—, 静岡産業大学 情報学部 研究紀要, 第17号, 409-426.

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

加城貴美子, 塚本博之, 天谷まり子, 釜中明 (2015) : 生後月数からみた幼児の土踏まず形成—接地足蹠画像の α 角と内側線～土踏まずまでの距離の分析, 日本発育発達学会 第13回大会, 21.

天谷まり子, 塚本博之, 加城貴美子, 釜中明 (2015) : 生後月数からみた幼児の土踏まず形成趾—接地足蹠画像の分析, 日本発育発達学会 第13回大会, 25.

5. その他の研究活動

- ・承認とモチベーションに関する研究
- ・幼児と成人・高齢者の足に関する研究
- ・足の測定・調査
- ・静岡県有度幼稚園で足の測定・調査 (年少児, 年中児, 年長児と年少児の保護者)
- ・静岡県有度幼稚園で足の測定・調査をした年少児と保護者への結果報告会と講演
- ・新潟県糸魚川市 足の測定・調査
- ・新潟県立看護大学 講演参加者の足の測定・調査
- ・新潟県妙高市にしき支援特別学校での講演参加者の足の測定・調査
- ・新潟県上越市頸城区老人クラブ連合会での講演参加者の足の測定・調査
- ・新潟県上越市いきいき春日野 講演参加者の足の測定・調査
- ・新潟県糸魚川市磯部地区公民館 講演参加者の足の測定・調査

【学会等における活動】

- ・日本交流分析学会 評議員
- ・日本母性衛生学会 代議員
- ・日本母性衛生学会 査読委員第
- ・回母性衛生学会 抄録発表査読委員
- ・日本交流分析協会 査読委員

【社会活動】

- ・外反母趾と足のトラブルに関する相談受付 : 2014年6月12日～

講演

- ・2014年10月4日 (土) 講演 テーマ : 元気で! 長生きしたけりゃ 足のゆびをもどしなさい, 参加者 : 207名

出前講座

- ・2014年9月8日 (月) 上越市 謙信交流会館 講演テーマ : 足の裏から健康を考える, 参加者 : 40名
- ・2014年9月18日 (木) 新潟県糸魚川市 健康増進課健康づくり係 講演テーマ : より良い姿勢を

- 保つには（足の裏から健康をみる），参加：97名
- ・2014年10月8日（木）新潟県砂利砕石協会上越支部 講演テーマ：足から健康をつくる，参加者：20名
 - ・2014年10月13日（日）上越市鴨島3丁目町内会 講演テーマ：足から健康をつくる，参加者：41名
 - ・2014年10月21日（火）社会福祉法人上越市社会福祉協議会安塚支所 講演テーマ：足から健康をつくる，参加者：20名
 - ・2014年10月31日（金）上越市教育委員会 公民館 講演テーマ：足から健康をつくる，参加者：50名
 - ・2014年12月1日（月）新潟県妙高市にしき特別支援学校 講演テーマ：より良い姿勢を保つには（足の裏から健康をみる），参加者：15名
 - ・2014年12月4日（木）上越市頸城区老人クラブ連合会 講演テーマ：足から健康をつくる，参加者：40名
 - ・2014年12月11日（木）上越市陸上貨物運送事業労働災害防止協会 講演テーマ：より良い姿勢を保つには，参加者：37名
 - ・2015年1月30日（金）上越市いきいき春日野 講演テーマ：より良い姿勢を保つには（足の裏から健康を見る）
 - ・2015年3月1日（日）上越市磯部地区公民館 講演テーマ：足から健康をつくる
 - ・2015年3月17日（火）新潟県糸魚川市能生地区社会福祉協議会 講演テーマ：足から健康をつくる。

新潟県上越市生涯学習講師

【学内教育活動】

- (1) 学部：母性看護学概論，母性看護学Ⅱ，母性看護学演習，母性看護学実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習
- (2) 大学院：文献講読

【学内委員会等の活動】

- ・教務委員会
- ・教学小委員会（副委員長）
- ・看護研究交流センター 特別研究 卒業生支援

【外部資金獲得】

なし

石田 和子

【研究活動】

1. 原著論文

Kazuko Ishida, Junko Ishida, Kanda Kiyoko.(2015.2) : Psychosocial Reaction patterns to Alopecia in Female Patients with Gynecological Cancer undergoing Chemotherapy. Asian Pacific Journal of prevention.2014.vol 15.1225-1233. (査読有)

2. その他の論文

酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 飯吉令枝, 加賀美亜矢子, 小林綾子, 山田真衣, 後田穰, 岡村典子, 高塚麻由, 河野優子, 菊地美帆, 桜井信人 (2015) 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 4号, 12-16. (査読有)

三浦一二美, 小川知恵, 沖野千代子, 石田和子 (2015) 再発乳がん罹患している配偶者の妻に求める要因, 新潟県立看護大学 平成25年度看護研究交流センター活動報告書, 71-74.

3. 著書

なし

4. 学会発表

(1)横川史穂子, 石田和子 (2015. 2) : オストメイトが患者会のソーシャルサポートによって統制力を獲得するプロセス, 第29回日本がん看護学会 横浜

(2)岡村利佳, 金井紀江, 金井久枝, 野川めぐみ, 石田和子 (2015. 2) : 術後再発した上行結腸がん患者の腹部の不快感に対する看護 - IASM理論を用いての症状マネジメント -, 第29回日本がん看護学会 横浜

(3)石岡幸恵, 石田和子 (2015. 2) : 治療中の若年層乳がん患者が折り合いをつけながら生活を送るプロセス, 第29回日本がん看護学会 横浜

(4)佐藤充子, 伊藤綾, 石田順子, 石田和子 (2015. 2) : 内分泌療法による有害事象を抱える前立腺がん患者の体験, 第29回日本がん看護学会 横浜

(5)大野綾, 佐藤充子, 石田和子 (2015. 2) : 化学療法治療中のがん患者が免疫細胞治療に“むかう力”, 第29回日本がん看護学会 横浜

(6)三浦一二美, 石田和子 (2015. 2) : 再発乳がん罹患している配偶者の妻に求める要因, 第29回日本がん看護学会 横浜

(7)片野吉子, 佐藤充子, 石田順子, 石田和子 (2014. 8) : 精神科看護学実習における看護学生の認知の変化, 第40回日本看護研究学会 奈良

(8)米山恭子, 明地由紀子, 石田和子 (2014. 8) : 熱中症により脳死を宣告した時から死の瞬間までの家族の苦悩, 第40回日本看護研究学会 奈良

5. その他の研究活動

地域課題研究発表会 (2014. 9. 20)

三浦一二美, 小川知恵, 沖野千代子, 石田和子 : 再発乳がん罹患している配偶者の妻に求める要因

【学会等における活動】

- ・ 日本看護協会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本がん看護学会
- ・ 日本がん看護学会 (評議員, 2012年~)
- ・ 日本がん看護学会 (査読委員, 2012年~)
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護診断学会
- ・ 日本造血幹細胞移植学会

- ・日本緩和医療学会
- ・北関東医学会
- ・群馬がん看護研究会
- ・群馬がん看護研究会（理事，2007～）
- ・群馬緩和ケア研究会
- ・群馬緩和ケア研究会（世話人，2007～）

【社会活動】

- ・日本専門看護師協議会
- ・群馬専門看護師協議会
- ・群馬がん看護学会（理事）
- ・高崎健康福祉大学
- ・専門看護論（学部4年）
専門看護師教育
- ・本庄児玉看護専門学校（2年）
看護研究の基礎
- ・新潟医療福祉大学大学院講義

【学内教育活動】

- (1) 学部：成人看護学Ⅰ，成人看護学Ⅱ，成人看護学演習，成人看護学実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習，総合科目
- (2) 大学院：がん看護学方法論 - 特論Ⅰ，がん看護学特論Ⅱ，がん看護特論Ⅲ，がん看護援助展開論Ⅰ，がん看護援助展開論Ⅱ，がん看護特別演習Ⅰ，がん看護演習Ⅱ，がん看護演習Ⅲ，がん看護専門看護師課題研究，特別研究，がん看護専門看護師実習，看護研究法

【学内委員会等の活動】

- ・実習委員会 委員長（2011年～現在）
- ・教務委員会 委員（2010年～現在）
- ・教学小委員会（2010年～現在）
- ・看護研究交流センター：地域課題研究部門長（2011年～2014. 3）

【外部資金獲得】

1. 石田和子（研究代表者）：化学療法に伴う吃逆の統合支援マネジメントモデルの開発と有用性の検討，科学研究費 基盤研究C（2014～）
2. 神田清子（研究代表者）石田和子（研究分担者）他：化学療法に伴う末梢神経障害の尺度開発によるケアマネジメントの包括的評価，科学研究費 基盤研究B（2013年～）
3. 石田順子（研究代表者）石田和子（研究分担者）他：がん患者と家族の生き生き支援モデルの開発，科学研究費 基盤研究C（2012年～2015. 3）

高柳 智子

【研究活動】

1. 原著論文
なし

2. その他論文

高柳智子(2015): 看護師の臨床判断を基盤とした回復期脳血管疾患患者の移乗における「見守り解除」のアセスメント指標修正版の評価, 日本リハビリテーション看護学会誌, 4(1), 25-30. (査読有)

3. 著書
なし

4. 学会発表

高柳智子(2014年8月24日): 回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患患者の移乗時見守り解除の意思決定方法の実態調査, 第24回日本看護研究学会学術集会, 奈良.

高柳智子(2014年9月25日): 回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の脳血管疾患患者の移乗時「見守り解除」におけるアセスメント指標の視点と関連要因, 第45回日本看護学会-看護管理-学術集会, 宮崎.

【学会等における活動】

- ・第45回日本看護学会-看護教育-学術集会抄録選考委員
- ・第45回日本看護学会-看護教育-学術集会座長

【社会活動】

- ・上越市情報公開・個人情報保護制度審議会委員

【学内教育活動】

- (1) 学部: 看護研究法, 成人看護学Ⅰ, 成人看護学Ⅱ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院: 看護学研究法, 成人看護学特論, 成人看護学援助論Ⅰ, 成人看護学援助論Ⅱ, 成人看護学特別演習, 看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

- ・紀要委員会 (委員長)
- ・教務委員会 (副委員長)
- ・倫理委員会
- ・教学小委員会
- ・看護研究交流センター地域課題研究開発部門
- ・看護研究交流センター特別研究部門 (地域政策課題リーダー)

【外部資金獲得】

高柳智子 (研究代表者), 科学研究費 基盤研究C 「脳血管疾患患者の移乗時見守りから自立へのプロセスを支援するケアプロトコルの開発」, 課題番号26463347, (2014年度-2017年度)

酒井 禎子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 飯吉令枝, 加賀美亜矢子, 小林綾子, 山田真衣, 後田穰, 岡村典子, 高塚麻由, 河野優子, 菊地美帆, 櫻井信人 (2015): 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要,4,12-16. (査読有)

池田圭子, 相澤達也, 西澤由美, 内藤 彩, 笠原章子, 飯田明美, 酒井禎子 (2014) 腹膜透析を行う高齢者の家族の負担, 新潟県立看護大学 平成25年度看護研究交流センター活動報告書, 91-94

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

池田圭子, 相澤達也, 西澤由美, 内藤彩, 笠原章子, 飯田明美, 酒井禎子 (平成26年9月20日): 腹膜透析を行う高齢者の家族の負担, 新潟県立看護大学 看護研究交流センター 平成25年度地域課題研究発表会, 上越市

【学会等における活動】

- ・日本死の臨床研究会関東甲信越支部 (役員)
- ・聖路加看護学会 (評議員)
- ・日本緩和医療学会 教育・研修委員会 ELNEC-J WPG WG員 (平成26年7月まで)
WPG員 (平成26年8月より)
- ・日本がん看護学会 (代議員)

【社会活動】

- ・医療の心を考える会パート3 世話人
- ・第11回ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成プログラム講師 (平成26年5月)
- ・新潟労災病院看護部教育研修講師「看護実践における看護研究」(平成26年5月)
- ・新潟労災病院看護部教育研修講師「研究計画書作成の基礎知識」(平成26年6月)
- ・新潟県立看護大学看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座 ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会」(平成26年7月)
- ・第12回ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成プログラム講師 (平成26年7月)
- ・金沢医科大学病院ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム講師 (平成26年8月)
- ・平成26年度看護研究交流センター出前講座「看護職・介護職のための緩和ケア講座」新潟県厚生連糸魚川総合病院 (平成26年8月)
- ・新潟労災病院看護部教育研修講師「研究計画書の指導」(平成26年8月)
- ・平成26年度看護研究交流センター出前講座「看護職・介護職のための緩和ケア講座」新潟県厚生連けいなん総合病院 (平成26年8月)
- ・平成26年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会「実習指導方法論Ⅱ (成人看護学・急性期)」講師 (平成26年8月～9月)
- ・新潟県立中央病院緩和ケア研修会ファシリテーター (平成26年10月)
- ・第3回新潟がん看護研究会学術講演会特別講演座長 (平成26年10月)

- ・鶴岡市立荘内病院ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム講師（平成26年11月）
- ・長野市民病院ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム講師（平成26年11～12月）
- ・2014年度ELNEC-J指導者フォローアップ研修会ファシリテーター（平成26年12月）
- ・医療の心を考える会パート3第4回例会「ターミナルケアと緩和ケア」シンポジスト（平成26年12月）
- ・独立行政法人国立がん研究センター主催平成26年度ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成研修講師（平成27年1～2月）
- ・新潟がん看護研究会主催ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム講師（平成27年2月）
- ・新潟県上越地域振興局健康福祉環境部 地域保健関係職員研修「高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアー死期が近づいた高齢者の身体的・心理的特徴をふまえたアセスメントの視点とチームアプローチ」（平成27年2月）

【学内教育活動】

- (1) 学部：成人看護学Ⅰ・Ⅱ，成人看護学演習，成人看護学実習，看護研究法，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習
- (2) 大学院：がん看護学方法論－特論Ⅰ，がん看護学特論Ⅱ，がん看護学特論Ⅲ，がん看護援助展開論Ⅰ，がん看護援助展開論Ⅱ，がん看護学特別演習Ⅰ－演習Ⅰ，がん看護学演習Ⅱ，がん看護学演習Ⅲ，専門分野別課題実習（がんCNSⅠ・Ⅱ），専門分野別課題研究（がんCNS），看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

- ・学生委員会（委員長）
- ・国家試験対策・就職委員会
- ・実習委員会
- ・看護研究交流センター特別研究部門
- ・エアロビクス研究会顧問
- ・野球サークル顧問
- ・V S P（ボランティア・スペシャル・プロジェクト）サークル顧問

【外部資金獲得】

- ・酒井禎子：科学研究費補助金基盤研究（C）地方都市の高齢がん患者と家族の療養生活を支える「文化」を基盤とした看護モデル開発，平成25～27年度

山田 正実

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

高橋栄子, 山田正実, 染谷千乃, 木原圭美, 土田由梨 (2014) 在宅酸素療法患者の継続看護システムの運用と評価 ―慢性期HOT患者への介入を試みて―, 新潟県立看護大学 平成25年度看護研究交流センター活動報告書, 75-78.

3. 著書

赤羽秀徳, 阿部篤子, 飯国紀一郎, 他14名, 山田正実 (2015.2.1) : 新看護学10成人看護 [2] 第12版第3刷, 医学書院, 東京

4. 学会発表

山田正実, 飯吉令枝 (2014.8.9-10) : COPD患者家族の在宅療養支援上の困難と問題解決のための方策, 日本看護家族学会, 倉敷市

5. その他の研究活動

- ・「COPD (シー・オー・ピー・ディー) と診断された人とそのご家族のための講習会 (第2回)」(科学研究費助成事業基盤研究C : COPD患者と家族がともに取り組むセルフマネジメントを支援するプログラム研究の一環) の企画と開催
- ・新潟県看護協会学会論文指導

【学会等における活動】

- ・日本看護学会
- ・日本家族看護学会
- ・家族関係学部会
- ・看護質的統合法 (N-KJ法) 研究会 (監事)
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
- ・日本禁煙科学会
- ・日本災害看護学会

- ・第164回全国禁煙アドバイザー育成講習会in新潟 (日本禁煙科学会・禁煙健康ネット・禁煙マラソン・新潟県立看護大学主催) の運営支援

【社会活動】

- ・新潟県立看護大学青年赤十字奉仕団事務局

【学内教育活動】

- (1) 学部 : 成人看護学 I, 成人看護学 II, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II
- (2) 大学院 : なし

【学内委員会等の活動】

- ・学生委員会
- ・入試・広報委員会
- ・11期生クラス担任
- ・看護研究交流センター先駆的学習支援部門員

- ・新潟県大学災害支援連携協議会
- ・災害時看護・支援ワーキンググループ（代表）
- ・災害看護サークル顧問

【外部資金獲得】

山田正実（研究代表者）科学研究費助成事業基盤研究C（2013～2015）「COPD患者と家族がともに取り組むセルフマネジメントを支援するプログラム」

大久保 明子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

3. 著書

なし

4. 学会発表

大久保明子, 北村千章, 山田真衣, 郷更織 (2014. 8. 26) : 小児看護学実習評価のためのルーブリック評価指標の検討, 千葉.

大久保明子 (2014. 8. 30) : 子どもを亡くした遺族へのグリーフケアを行う看護師の体験, 仏教看護・ビハーラ学会 10周年記念年次大会, 長野.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本小児看護学会
- ・日本小児保健学会
- ・日本小児がん看護学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本看護教育学会
- ・日本死の臨床研究会
- ・日本家族看護学会
- ・新潟小児看護研究会 (副会長)
- ・新潟県看護協会 上越地区支部 (役員)

【社会活動】

- ・ファミリーサポートセンター主催 講演会講師 子どものホームケア
- ・第10回 新潟小児看護研究集会 子どもの在宅支援を考える～医療的ケアが必要な子どもが家族と暮らすために～ シンポジウム 座長
- ・仏教看護・ビハーラ学会 10周年記念年次大会 口演発表 座長
- ・上越教育大学大学院 非常勤講師 いのち教育論
- ・子どもを亡くした遺族の会「わかばの会」役員

【学内教育活動】

- (1) 学部: 小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習Ⅰ, 小児看護学実習Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, 看護研究法
- (2) 大学院: なし

【学内委員会等の活動】

- ・教務委員会
- ・国家試験対策就職委員会 (副委員長)
- ・看護研究交流センター 地域貢献部門
- ・学年担任 (2 学年)

【外部資金獲得】

なし

高島 葉子

【研究活動】

1. 原著論文

高島葉子, 塚本康子, 中島通子 (2014): 助産事故後も助産師に信頼感を維持している女性の体験, 日本助産学会誌, 28 (1), 26-38. (査読有)

2. その他の論文

片平伸子, 高林知佳子, 平澤則子, 高島葉子, 他4名 (2014): 県外に就職した卒業生の就職時の看護技術の到達度と支援ニーズ, 第44回日本看護学会論文集, 看護教育, 157-160. (査読有)
高林知佳子, 片平伸子, 平澤則子, 高島葉子, 他4名 (2014): 県外就業者におけるUターン就職の意向と支援ニーズ, 第44回日本看護学会論文集, 看護管理, 7-10. 優秀論文賞 (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

- ・地域課題研究 共同研究 上越総合病院 4北病棟

【学会等における活動】

- ・ 日本助産学会
- ・ 日本母性衛生学会
- ・ 日本思春期学会
- ・ 日本災害看護学会
- ・ 公益社団法人新潟県助産師会監事 平成22年4月～現在に至る
- ・ 新潟県看護協会 助産師職能理事 (委員長) 平成26年5月～現在に至る
- ・ 日本看護協会 看護教育学会 抄録査読委員 平成26年3月～9月

【社会活動】

- ・ 上越市 子ども・子育て会議 会長 平成26年4月～現在に至る
- ・ 上越教育大学 非常勤講師 平成26年4月～現在に至る
- ・ 新潟母乳育児をすすめる会幹事
- ・ 日本看護協会会員
- ・ 全国助産師教育協議会 (社員)
- ・ 西蒲区巻地域保健福祉センター主催講演会講師
「今 (現在・成熟期) を生きる女性の健康と身体」 平成26年11月15日
- ・ 新潟県立中央病院 研修講師 「これからの助産師の専門職としてのキャリア形成について～クリニカルラダーレベルⅢ認証申請開始を前にして～」 平成27年2月20日
- ・ 新潟県看護協会施設と開業助産師の連携研修会講師 「開業助産師の活動を支える法的根拠と依頼のしくみ」 平成27年3月7日
- ・ 「にしかん助産師と語る会」 発起人

【学内教育活動】

- (1) 学部: 助産学Ⅰ, 助産学Ⅱ, 助産学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習
- (2) 大学院: なし
- (3) その他:
 - ・ 新潟県立看護大学助産学第2回新生児蘇生法Bコース講習会開催 倉辻言講師
2014年9月19日13時～17時30分 新潟県立看護大学助産学講義室・実習室

- ・看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座 「自分の助産診断・助産技術学を再構築してみよう（妊娠・分娩期）」 助産診断の概要担当. 2014年12月6日13時～16時
新潟県立看護大学多目的室
- ・紀要委員会主催研修会講師 「査読プロセスで学んだ研究論文のコツ」 2部
平成27年3月2日 第1ホール

【学内委員会等の活動】

- ・国家試験対策・就職委員会（委員長）
- ・教務委員会
担当：看護研究発表会準備・運営
年度計画では、公正な成績評価の実施に関する具体的方策を担当し、シラバスの評価基準を作成した
カリキュラムワーキンググループ
- ・FD委員会
- ・災害時看護・支援ワーキンググループ
- ・看護交流センター事業 特別研究部門 卒業生支援チームリーダー

【外部資金獲得】

- ・科学研究費補助金（基盤研究C）
高島葉子（研究代表者）：助産事故後の当事者間の信頼関係をつなぐ「分岐」を意識した初期対応モデルの構築，課題番号25463492，（平成25年度－平成27年度）

飯田 智恵

【研究活動】

1. 原著論文
なし

2. その他の論文
なし

3. 著書
なし

4. 学会発表

Hashimoto A., Hara N., Takabayashi C., Iida C., et. al. (2015.2.6) : Study on factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata Prefecture, 18th East Asian Forum of Nursing Scholars (Taipei)

5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本がん看護学会
- ・北関東医学会
- ・新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

- ・慢性病患者の看護～患者が持つ力を引き出す看護（2014年7月29日）：長野県長野西高等学校 梶の葉大学講師（60分）
- ・呼吸器のフィジカルアセスメント（2014年11月29日）：平成26年度新潟県立看護研究交流センター 公開講座講師（120分）

【学内教育活動】

- (1) 学部：成人看護学Ⅰ，成人看護学Ⅱ，成人看護学演習，成人看護学実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・入試・広報委員会
- ・看護研究交流センター看護職学習支援部門 ・ハラスメント相談員
- ・保健指導員
- ・衛生委員会

【外部資金獲得】

なし

小林 綾子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 飯吉令枝, 加賀美亜矢子, 小林綾子, 山田真衣, 後田穰, 岡村典子, 高塚麻由, 河野優子, 菊地美帆, 櫻井信人 (2015年2月13日): 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 4巻, p 12-16. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

小林綾子 (2014年9月21日): 降雪地域で暮らす2型糖尿病患者の冬季の歩数に影響する要因-冬季の歩数が全国平均より少ない対象者に焦点を当てて-, 第19回日本糖尿病教育看護学会学術集会, 長良川国際会議場.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本糖尿病教育看護学会
- ・日本慢性看護学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本看護科学学会

【社会活動】

新潟県立中央病院内科外来 糖尿病患者の看護相談の実施 (毎月1~2回 4~8時間)

【学内教育活動】

- (1) 学部: 成人看護学演習, 成人看護学Ⅱ, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院: なし

【学内委員会等の活動】

- ・実習委員会
- ・看護研究交流センター特別研究部門

【外部資金獲得】

科学研究費助成事業 (若手研究B) 補助事業期間 平成24年度~平成26年度)

小林綾子 (研究代表者): 降雪地域の特性を生かした2型糖尿病患者の運動療法継続に向けた支援方法の検討.

渡邊 千春

【研究活動】

1. 原著論文

渡邊千春(2014)：終末期実習に対する看護学生の構えに関する研究, 日本医学看護学教育学会誌, 23(2), 521-526. (査読有)

2. その他の論文

石井瑞恵, 海發愛希, 渡邊千春(2014)：繰り返し入院しながら化学療法を継続している進行大腸がん患者が受けるサポートと対処行動—継続に伴う影響や心配に焦点を当て—, がん看護, 19(5), 521-526. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

渡邊千春, 丸山美香, 三浦一二美, 藤井裕美子(2014年6月20日):終末期がん患者への輸液療法に対する看護に関する実態調査—A県を対象として—,第19回日本緩和医療学会学術大会,神戸. (査読有)

渡邊千春,石岡幸恵(2014年11月1日)：一般病棟，緩和ケア病棟に勤務する看護師のターミナルケア態度に関する実態調査 A県を対象として,第38回日本死の臨床研究会年次大会,別府. (査読有)

渡邊千春,丸山美香,三浦一二美,渡辺裕美子 (2015年2月28日)：終末期がん患者への輸液療法に対する看護の実態調査 (第2報) ,第29回日本がん看護学会学術集会,横浜. (査読有)

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本緩和医療学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本医学看護学教育学会

【社会活動】

- ・第3回ELNEC—Jコアカリキュラム看護師教育プログラムin上越 (2014年7月19・20日)においてモジュール2「ケーススタディ」,モジュール8「臨死期のケア」講義・演習担当

【学内教育活動】

- (1) 学部：成人看護学Ⅱ,成人看護学演習,総合実習,専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院：専門分野別課題実習 (がんCNSⅠ, がんCNSⅡ)

【学内委員会等の活動】

- ・入試・広報委員会
- ・看護研究交流センター地域社会貢献部門

【外部資金獲得】

渡邊千春：平成26年～29年 科学研究費補助金若手B「EBPに基づいた終末期がん患者・家族への輸液療法意思決定支援ガイドの導入と評価」, 課題番号26861898.

竹原 則子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

竹原則子, 和田恵美子, 後藤佳子: A病院における看護師のキャリアアップと継続教育へのニーズに関する実態調査, 新潟県立看護大学紀要第4巻:1-6 (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

- ・新潟県立看護大学看護交流センター地域課題研究 (学内責任者):
総合医療生協木戸病院 (新潟市) 「内視鏡による検査・治療過程において看護師が感じる危険因子」

【学会等における活動】

- ・日本集中治療医学会 (看護部門)
- ・日本クリティカルケア看護学会
- ・日本看護管理学会
- ・看護教育研究学会
- ・日本死の臨床研究会

【社会活動】

- ・新潟県立看護大学看護交流センター事業: 出前講座講師 (H26.6.13大手町小学校PTA研修; BLSについて)
- ・新潟県立看護大学看護交流センター事業: どこでもカレッジ講師 (H26.11.22気管吸引のエビデンス)

【学内教育活動】

- (1) 学部: 成人看護学Ⅱ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院: なし

【学内委員会等の活動】

- ・学生委員会
- ・2学年担任
- ・看護交流センター地域貢献部門

【外部資金獲得】

なし

石原 千晶

【研究活動】

1. 原著論文
なし

2. その他の論文
なし

3. 著書
なし

4. 学会発表

Akihiro HASHIMOTO, Naoko HARA, Chikako TAKABAYASHI, Chie IIDA, Ayako KAGAMI, Kiyoko NAKAZAWA, Chiaki ISHIHARA, Mayu TAKATSUKA, Ryoko KAWASHIMA, Mitsutoshi ONIGATA (February 5-6,2015) "Study on factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata Prefecture", 18th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS(EAFONS). Taipei, Taiwan.

5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
- ・群馬がん看護研究会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

- (1) 学部：成人看護学演習，成人看護学Ⅱ，成人看護学実習，総合実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・図書委員会
- ・国家試験対策・就職委員会
- ・看護研究交流センター看護職学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

石岡 幸恵

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

石岡幸恵, 石田和子 (2014) : 治療中の若年層乳がん患者が折り合いをつけながら生活を送るプロセス, 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜

渡邊 千春, 石岡 幸恵 (2014) : 一般病棟, 緩和ケア病棟に勤務する看護師のターミナルケア態度に関する実態調査 A県を対象として, 第38回日本死の臨床研究会年次大会, 別府

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本緩和医療学会
- ・日本臨床倫理学会
- ・日本乳がん看護研究会
- ・日本死の臨床研究会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

- (1) 学部 : 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習
- (2) 大学院 : なし

【学内委員会等の活動】

- ・保健指導員
- ・災害時看護支援ワーキング

【外部資金獲得】

なし

中澤 紀代子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 飯吉令枝, 加賀美亜矢子, 小林綾子, 山田真衣, 後田穰, 岡村典子, 高塚麻由, 河野優子, 菊地美帆, 桜井信人 (2015): 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 4号, 12-16.

3. 著書

なし

4. 学会発表

中澤 紀代子, 定方 美恵子, 佐山 光子 (2014.6.28): 死産児と母親との面会をめぐる助産師による看護実践のプロセス, 第16回日本母性看護学会 (京都)

Akihiro HASHIMOTO, Naoko HARA, Chikako TAKABAYASHI, Chie IIDA, Ayako KAGAMI, Kiyoko NAKAZAWA, Chiaki ISHIHARA, Mayu TAKATSUKA, Ryoko KAWASHIMA, Mitsutoshi ONIGATA (February 6, 2015.) "Study on factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata Prefecture", 第18回 EAFON, 台北, 台湾 (台湾大学)

【学会等における活動】

- ・日本母性衛生学会
- ・日本母性看護学会
- ・日本看護科学学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

- (1) 学部: 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習
- (2) 大学院: なし

【学内委員会等の活動】

- ・実習委員会
- ・国家試験対策・就職委員会
- ・看護研究交流センター看護職学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

天谷 まり子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

天谷まり子 (2015) : 糖尿病妊婦の食生活に関する文献レビュー—日本の看護学研究論文による検討—, 新潟県立看護大学紀要, 第4巻, 7-11 (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

天谷まり子, 塚本博之, 加城貴美子, 釜中明 (2015年3月14日) : 生後月数からみた幼児の土踏まず形成趾—接地足蹠画像の趾の分析—, 日本発育発達学会第13回大会, 東京都

加城貴美子, 塚本博之, 天谷まり子, 釜中明 (2015年3月15日) : 生後月数からみた幼児の土踏まず形成—接地足蹠画像の α 角と内側線～土踏まずまでの距離の分析, 日本発育発達学会 第13回大会, 東京都

天谷まり子 (2015年3月29日) : 糖尿病妊婦の食生活に関する文献レビュー—日本の看護学研究論文による検討—, 第29回日本助産学会学術集会, 東京都

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本助産学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本母性看護学会
- ・日本母性衛生学会
- ・新潟母性衛生学会
- ・日本発育・発達学会

【社会活動】

- ・ALSO-Japan

【学内教育活動】

(1) 学部 : 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 母性看護学専門ゼミナールⅠ, 母性看護学専門ゼミナールⅡ, 総合実習

(2) 大学院 : なし

【学内委員会等の活動】

- ・学生委員会
- ・FD委員会
- ・入試・広報委員会

【外部資金獲得】

なし

山田 真衣

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 飯吉令枝, 加賀美亜矢子, 小林綾子, 山田真衣, 後田穰, 岡村典子, 高塚麻由, 河野優子, 菊地美帆, 櫻井信人 (2015): 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要,4,12-16. 査読有り

3. 著書

なし

4. 学会発表

大久保明子, 北村千章, 山田真衣, 郷更織 (2014.8.26): 小児看護学実習評価のためのルーブリック評価指標の検討, 第24回 日本看護学教育学会学術集会, 千葉.

5. その他の研究活動

- ・新潟県における医療的ケアを必要とする小児の訪問看護に関する研究
- ・森林セラピーロードでの気候療法で期待される心身リラックス効果に関する研究

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本小児看護学会
- ・日本家族看護学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本小児保健協会
- ・新潟小児看護研究会
- ・日本福祉のまちづくり学会
- ・日本精神衛生学会

【社会活動】

- ・新潟小児看護研究会 役員
- ・新潟県看護協会 委員

【学内教育活動】

- (1) 学部: 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習Ⅰ, 小児看護学演習Ⅱ, 小児看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習
- (2) 大学院: なし

【学内委員会等の活動】

- ・実習委員会
- ・図書委員会
- ・看護研究交流センター 特別研究

【外部資金獲得】

なし

北村 千章

【研究活動】

1. 原著論文

北村 千章, (2014) : 重症先天性心疾患をもつ子どもを成人まで育てあげた母親の体験—重症疾患をもつ子どもを育てる母親を支える信条—, 日本遺伝看護学会誌, 13-(1), 47-59. (査読有)

2. その他論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

北村 千章, 中込さと子 (2014年10月25日) : 22. q11. 2欠失症候群の子どもたちと家族への支援—22 HEART CLUB での活動と, ある家族との関わりから—, 日本遺伝看護学会第13回学術大会, 沖縄県 (査読有)

北村 千章, 西條竜也 (2014年7月20日) : 先天性心疾患をもつ子どものひとり立ちに必要な母親のかわり, 日本小児看護学会第24回学術大会, 東京都 (査読有)

大久保明子, 北村 千章, 山田真衣, 郷更織, (2014年8月27日) : 日本看護学教育学会第24回学術大会, 東京都 (査読有)

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本小児看護学会
- ・日本遺伝看護学会
- ・日本家族看護学会
- ・日本看護学教育学会
- ・新潟小児看護研究会 (役員)

【社会活動】

- ・長野県長野看護専門学校 非常勤講師, 小児援助論
- ・22 HEART CLUB アドバイザー
- ・東京都心臓病の子どもを守る会のボランティアスタッフ
- ・医療的ケアの必要な子どもたちへのボランティアサポート
- ・中学生へのいのち教育講師, (長野県須坂市相森中学校, 長野県小布施町小布施中学校、長野県飯綱町飯綱中学校)
- ・上越看護研究発表会実行委員
- ・新潟県立看護大学地域センター事業 平成26年度 出前講座
 - 1) 上越カトリック天使幼稚園第1回子育て講演会講師
「子どもには生きる力がある」(2014年6月26日)
 - 2) 上越市春日地域青少年育成会共済健康づくり講演会講師
「ぐっすり眠る, すっきり起きる習慣術」(2014年8月7日)
 - 3) 直江津学びの交流館子育て応援講師
「親子で食育教室」(2014年9月13日)
 - 4) 上越市真行寺幼稚園講師
「子どもには生きる力がある」(2014年9月24日)
 - 5) 新潟県立高田特別支援学校「健康教室」講師

- 「心とからだの成長を考える-家庭での支援について-」(2014年10月20日)
- 6) 糸魚川市上南地区公民館子育て講演会講師
「子どもには生きる力がある(乳幼児編)」(2015年1月24日)
- 7) 上越市立高志小学校6年生対象講話講師
「すっきり眠る、すっきり起きることの大切さ」(2015年2月9日)
- 8) 上越市立大島小学校6年生対象講話講師
「大切にしてほしいあなたの性(いのち)」(2015年3月5日)

【学内教育活動】

- (1) 学部：小児看護学Ⅱ，小児看護学演習，小児看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習.
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・学生委員会
- ・看護研究交流センター地域課題研究開発部門
- ・学年担任(1学年)

【外部資金獲得】

なし

高塚 麻由

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 飯吉令枝, 加賀美亜矢子, 小林綾子, 山田真衣, 後田穰, 岡村典子, 高塚麻由, 河野優子, 菊地美帆, 櫻井信人 (2015): 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 4, 12-16. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

Takatsuka M, Nakashima M: Negative feelings Experienced by Japanese Mothers during Breastfeeding. 30th Triennial Congress, The International Confederation of Midwives (ICM). Czech Republic, Prague. (June 1-5, 2014.) (査読有)

Akihiro Hashimoto, Naoko Hara, Chikako Takabayashi, Chie Iida, Ayako Kagami, Kiyoko Nakazawa, Chiaki Ishihara, Mayu Takatsuka, Ryoko Kawashima, Mitsutoshi Onigata(February,5-6.2015): Finding factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata prefecture. 18th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS(EAFONS). Taipei, Taiwan.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本助産学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本看護協会
- ・特定非営利活動法人 女性の安全と健康のための支援教育センター

【社会活動】

- ・新潟県立看護大学助産学第2回新生児蘇生法Bコース講習会開催. 倉辻言講師. 2014年9月19日13時～17時30分. 新潟県立看護大学助産学講義室・実習室.
- ・看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座. 自分の助産診断・助産技術学を再構築してみよう(妊娠・分娩期). 助産過程「分娩期」担当. 2014年12月6日13時～16時. 新潟県立看護大学多目的室.
- ・新潟県立新潟江南高等学校「大学講義体験」講師. 2014年10月30日12時50分～14時20分.

【学内教育活動】

- (1) 学部: 助産学 I, 助産学実習, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II, 総合実習
- (2) 大学院: なし

【学内委員会等の活動】

- ・図書委員会
- ・実習委員会
- ・看護研究交流センター 看護職学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

風間 みえ

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
なし
4. 学会発表
なし
5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

- ・日本思春期学会 学術集会参加
- ・日本母性衛生学会 学術集会参加
- ・日本性感染症学会 学術集会参加

【社会活動】

- ・中学生対象外部授業講師 小千谷市立小千谷中学校 2年生（生命と性の健康教育）2014. 10
- ・中学生対象外部授業講師 小千谷市立南中学校 1年生・3年生（生命と性の健康教育）
2014. 12. 9
- ・未就園児育児相談会相談員 学校法人 めぐみ幼稚園 2014. 6. 28
- ・学校法人めぐみ幼稚園 評議員
- ・高校生対象講演会講師 新潟県立加茂高等学校 1年生・2年生（保健講話）2015. 3. 4
- ・高校生対象講義講師 新潟県立六日町高等学校1年生・2年生（基礎看護 病床環境）
2014. 11. 7
- ・中学生対象外部授業講師 小千谷市立千田中学校 1年生・2年生・3年生（生命と性の健康教育）2015. 1. 30

【学内教育活動】

- (1) 学部：助産学Ⅰ，助産学演習，助産学実習，総合実習
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・入試・広報委員会
- ・看護交流センター 地域社会部門 いきいきサロン
- ・編入学生コーディネーター
- ・新潟県立看護大学助産学第2回新生児蘇生法Bコース講習会開催 倉辻言講師
2014年9月19日13時～17時30分 新潟県立看護大学助産学講義室・実習室
- ・看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座 「自分の助産診断・助産技術学を再構築してみよう（妊娠・分娩期）」 助産診断の妊娠期担当. 2014年12月6日13時～16時
新潟県立看護大学多目的室

【外部資金獲得】

なし

鬼形 充智

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

Akihiro Hashimoto, Naoko Hara, Chikako Takabayashi, Chie Iida, Ayako Kagami, Kiyoko Nakazawa, Chiaki Ishihara, Mayu Takatsuka, Ryoko Kawashima, Mitsutoshi Onigata (February 5-6,2015) : Finding factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata prefecture. 18th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS(EAFONS). Taipei, Taiwan.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本がん看護学会

【社会活動】

- ・日本救急医学会ICLSインストラクタ
- ・上越がんプロジェクト (JCAP)

【学内教育活動】

- (1) 学部：成人看護学演習，成人看護学実習
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

なし

【外部資金獲得】

なし

高橋 祥子

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
なし
4. 学会発表
なし
5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

- ・日本小児看護学会

【社会活動】

- ・新潟小児看護研究会（役員）

【学内教育活動】

- (1) 学部：小児看護学演習, 小児看護学実習 I, 小児看護学実習 II
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・看護研究発表会運営委員
- ・ハラスメント相談員

【外部資金獲得】

なし

平澤 則子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

片平伸子, 井上智代, 藤川あや, 平澤則子(2014):新潟県の訪問看護ステーションにおける災害対策リーフレットの作成, 日本在宅ケア学会誌, 18(1): 91-98 (査読有)

片平伸子, 高林知佳子, 平澤則子, 高島葉子, 小泉美佐子, 後田譲, 佐藤順子, 榎田健(2014): 県外に就職した卒業生の就職時の看護技術の到達度と支援ニーズ, 日本看護学会論文集: 看護教育, (44): 157-1608 (査読有)

高林知佳子, 片平伸子, 平澤則子, 高島葉子, 後田穰, 小泉美佐子, 榎田健, 佐藤順子(2104): 県外就業者におけるUターン就職の意向と支援ニーズ A県における県外就業状況等実態調査を通して, 日本看護学会論文集: 看護管理, (44): 7-10 (査読有)

片平伸子, 井上智代, 藤川あや, 平澤則子(2014):訪問看護ステーションにおける災害対策の実態と相互支援ネットワークについての意向, 日本災害看護学会誌, 16(2): 27-35 (査読有)

小林奈緒子, 平澤則子 (2014) 生活習慣病予防のための効果的な保健指導における保健師の能力, 新潟県立看護大学 平成25年度看護研究交流センター報告書, 79-82 (査読無)

富井美穂, 北島正子, 平澤則子 (2014) 在宅ALS患者を受け持つ介護支援専門員の心理的負担を軽減させるための保健師の支援, 新潟県立看護大学 平成25年度看護研究交流センター報告書, 87-90 (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

室岡真樹, 平澤則子(2014/8/2): 幼児を対象とした感染予防のための手洗い習得に向けた支援—保育士の意識とかわりの変化の過程—, 第17回日本地域看護学会学術集会, 岡山

渡邊路子, 平澤則子(2014/8/3):電機機器製造業従事者における睡眠の実態と関連要因, 第17回日本地域看護学会学術集会, 岡山

上杉絵理, 平澤則子(2014/8/3):健康課題明確化のための市町村保健師の判断の特徴—保健事業の実践より—, 第17回日本地域看護学会学術集会, 岡山

片平伸子, 平澤則子, 飯吉令枝, 高林知佳子, 井上智代, 野口裕子, 藤川あや(2014/9/17): 文献検討の成果を活用した公衆衛生看護学演習プログラムの改善, 第45回日本看護学会 看護教育, 新潟

平澤則子, 飯吉令枝, 高林知佳子, 片平伸子, 井上智代, 野口裕子, 藤川あや(2014/11/6):継続訪問実習における学習目標に対する学生自己評価と学びを促すための実習指導の課題, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木

小林奈緒子, 平澤則子(2014/11/6):保健師が実践する生活習慣病予防に求められる効果的な保健指導能力, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木

飯吉令枝, 平澤則子, 藤川あや, 小林恵子(2014/11/6):介護予防が必要な高齢者を早期発見するための地域住民による見守り項目の活用可能性, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木

藤川あや, 平澤則子(2014/11/6):職場交換研修を取り入れた地域内専門職教育の効果と課題, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木

富井美穂, 北島正子, 平澤則子(2014/11/6):在宅ALS患者を受け持つ介護支援専門員の心理的負担を軽減させるための保健師の支援, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本地域看護学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本難病看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本保健福祉学会
- ・家族問題研究会
- ・日本ルーラルナーシング学会
- ・日本災害看護学会
- ・平澤則子：第45回日本看護学会 看護教育 抄録選考委員
- ・平澤則子：平成26年8月2日 第17回日本地域看護学会示説母子保健①の座長

【社会活動】

- ・新潟県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会（委員，平成26年11月から現在に至る）
- ・NPO法人新潟難病支援ネットワーク（理事，平成24年4月から現在に至る）
- ・上越市介護保険運営協議会（副会長，平成21年9月から現在に至る）
- ・上越市施設整備等検討委員会（座長，平成22年7月から現在に至る）
- ・上越市男女共同参画審議会（委員，平成25年7月から現在に至る）
- ・上越市総合計画審議会（委員，平成26年4月15日から12月まで）
- ・上越市中郷ひばり荘施設整備等事業者選定委員会（委員長，平成26年6月から8月）
- ・上越地域在宅医療連携協議会他職種連携研修会企画委員会（オブザーバー，平成26年4月から現在に至る）
- ・JCV番組審議委員会（委員，平成25年7月から平成27年3月まで）
- ・長岡市栃尾支所いきいき支援事業（アドバイザー，平成25年4月から現在に至る）
- ・長岡市小国支所いきいき支援事業（アドバイザー，平成26年4月から現在に至る）
- ・平成26年度看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会講師（平成26年10月10日）：「看護教育課程」
- ・いきいき支援事業講演会助言者（平成27年3月1日）
- ・在宅医療講演会座長（平成27年3月12日）
- ・第3回長岡医療と福祉の里学会座長・評価者（平成27年3月22日）

【学内教育活動】

- (1) 学部：公衆衛生看護学Ⅰ，公衆衛生看護学Ⅱ，在宅看護論演習，公衆衛生看護学演習，地域看護学実習，在宅看護論実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習，疫学
- (2) 大学院：看護学研究法，地域看護学方法論，地域看護学援助展開論，学校保健・養護教育展開論，地域看護学特別演習Ⅰ，地域看護学特別円数Ⅱ，老年看護学特論Ⅲ，専門分野別課題演習，看護学領域特別研究，専門分野別課題研究（CNS該当）

【学内委員会等の活動】

- ・教務委員会（委員長）
- ・教学小委員会
- ・FD委員会
- ・ハラスメント防止委員会
- ・自己点検評価特別委員会
- ・看護研究交流センター（センター長）
- ・看護研究交流センター特別研究部門

【外部資金獲得】

平澤則子：在宅難病患者と家族のソーシャル・キャピタルと生活満足度に関する実証的研究，基盤研究（C），平成24年度～平成28年度，科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金補助金研究費），（課題番号24593448）

小泉 美佐子

【研究活動】

1. 原著論文

上山真美, 小泉美佐子 (2014) 脳血管疾患患者における尿道留置カテーテルから自排尿得に向けたケアプロトコルの開発と有用性, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 18(4)340-347 (査読有)

2. その他の論文

片平伸子, 高林知佳子, 平澤則子, 高島葉子, 小泉美佐子, 後田譲, 佐藤順子, 榎田健(2014): 県外に就職した卒業生の就職時の看護技術の到達度と支援ニーズ, 日本看護学会論文集: 看護教育,(44)157-160 (査読有)

高林知佳子, 片平伸子, 平澤則子, 高島葉子, 後田穰, 小泉美佐子, 榎田健, 佐藤順子(2104): 県外就業者におけるUターン就職の意向と支援ニーズ A県における県外就業状況等実態調を通して, 日本看護学会論文集: 看護管理,(44)7-10 (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

坂本裕子, 堀江竜也, 阿部桃子, 上山真美, 小泉美佐子, 佐藤和佳子 (2014年6月14日), 介護保険施設における尿道留置カテーテル抜去の判断に影響する要因の検討, 日本老年泌尿器科学会, 山形市

佐藤和佳子, 陶山啓子, 泉キヨ子, 上山真奈美, 形上五月, 堀江竜弥, 阿部桃子, 小国亜希子, 佐川奈央, 小泉美佐子 (2014年6月28日): 高齢者排尿誘導ガイドラインの開発3年の成果ーEvidence Based Practiceの促進に向けてー, 日本老年看護学会, 名古屋

5. その他の研究活動

・日本老年泌尿器科学会研究助成, 根拠に基づく高齢者排尿誘導法ガイドラインの開発 (代表: 佐藤和佳子)

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会 (評議員)
- ・日本老年看護学会 (評議員)
- ・日本認知症ケア学会 (代議員・学会誌査読委員)
- ・日本老年社会学会 (学会誌査読委員)
- ・日本老年泌尿器科学会 (評議員)
- ・日本創傷・オストミー・失禁管理学会 (評議員)
- ・第27回日本老年泌尿器科学会・一般口演座長 (2014年6月14日)

【社会活動】

- ・高等教育コンソシアムにいがた (常任委員)
- ・新潟大学「研究の水準・成果の検証のための研究評価」に係る外部評価員
- ・上越市災害医療コーディネーターチーム員
- ・一般社団法人日本看護系大学協議会 (社員)
- ・上越地域認知症対応力向上研修会・パネルディスカッション座長 (2014年8月2日)

【学内教育活動】

- (1) 学部: 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ
- (2) 大学院: 看護学研究法, 老年看護学特論Ⅰ, 老年看護学特論Ⅱ, 老年看護学特論Ⅲ, 老年看護学特論Ⅳ, 老年看護学特別演習Ⅰ, 老年看護学特別演習Ⅱ, 老年看護学実習Ⅰ, 老年看護学実習Ⅱ

護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅲ，専門分野別課題研究

【学内委員会等の活動】

- ・教学小委員会（委員長）
- ・ハラスメント防止特別委員会（委員長）
- ・自己点検評価特別委員会（委員長）
- ・FD委員会
- ・情報ネットワーク特別委員会
- ・平成26年度法人ワーキング（途中から委員長代行）

【外部資金獲得】

なし

原 等子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

関栄子, 上原喜美子, 原等子, 他5名 (2014) : 魚沼地域ケアスタッフの口腔ケアに対する意識の実態, 新潟県立看護大学 平成25年度看護研究交流センター活動報告書, 67-70.

原等子 (2015.3) : 特集1 食べる力を引き出す! 認知症高齢者の食事ケア 認知症高齢者の食べる力を高める看護ケア, 臨床老年看護, 22 (2), 9-13.

3. 著書

なし

4. 学会発表

Naoko Hara, Yui Osaka, Ayako Kagami (2014.5.2-3) : Needs for the early-onset dementia patients and their family in Japan, 29th International Conference of Alzheimer's Disease International, San Juan, Puerto Rico.

Akihiro Hashimoto, Naoko Hara, Chikako Takabayashi, Chie Iida, Ayako Kagami, Kiyoko Nakazawa, Chiaki Ishihara, Mayu Takatsuka, Ryoko Kawashima, Mitsutoshi Onigata (February 5-6, 2015.) : Finding factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata prefecture. 18th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS(EAFONS). Taipei, Taiwan.

吉原悦子, 丸山泰子, 原等子, 他1名 (4名中4番目) (2014.5.31-6.1) : 認知症対応型共同生活介護 (GH) 入居者における排便ケアに関する1考察, 第15回日本認知症ケア学会大会, 東京.

松本奈々, 加賀美亜矢子, 原等子 (2014.5.31-6.1) : 総合病院 (急性期) の認知症看護認定看護師が抱える役割遂行上の課題について 認知症看護認定看護師 (2~3年目) のグループインタビューから, 第15回日本認知症ケア学会大会, 東京.

加賀美亜矢子, 原等子 (2014.5.31-6.1) : 認知症高齢者の下剤による排便と日常生活行動への影響に関する事例検討 介護老人保健施設入所中の1事例から, 第15回日本認知症ケア学会大会, 東京.

上原喜美子, 原等子 (2014.5.31-6.1) : X地域医療圏における口腔ケアに対する看護師の意識の実態, 日本慢性看護学会第8回学術集会, 福岡県久留米市.

高野久美子, 上原喜美子, 原等子, 他4名 (2014.10.2-3) : A地域ケアスタッフにおける口腔ケアプランの現状, 第45回日本看護学会 在宅看護, 山形県山形市.

吉原悦子, 丸山泰子, 原等子 (4人中4番目) (2014.11.29-30) : 認知症グループホーム職員における排便ケア実施状況の変化からみる看護職のサポートのあり方, 第34回日本看護科学学会学術集会, 愛知県名古屋市.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護協会 (1989~) [日本看護学会論文集 (在宅看護) 査読委員 (2014)]
- ・日本老年社会科学会 (1999~)
- ・日本老年看護学会 (2002~) [第19回学術集会査読委員 (2014), 論文査読委員(2009~)]
- ・日本認知症ケア学会 (2004~) [評議員(2010~), 論文審査委員 (2005~), 1次試験問題作成委員 (2007~), 査読委員 (2007~)]
- ・日本口腔ケア学会 (2005~現在) [評議員 (2006~), 編集委員および査読委員 (2005~), 用語委員会 (2009~)]
- ・日本老年歯学学会 (2009~)
- ・日本静脈経腸栄養学会 (2012~)

- ・日本慢性看護学会（2014～）

【社会活動】

1. 学外活動

- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 B会員（2004年～，2009年～新潟支部世話人）
- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 北陸ブロック代表理事（2013年～），国際交流委員会（2013年～），本人・若年支援委員会（2013年～）
- ・Annual Council Meeting on Alzheimer's Disease International（Puerto Rico, 2014.5.1）代表団
- ・認知症サミット日本主催レガシーイベント会議 参加（東京，2014.11.6）
- ・Alzheimer's Association Japan：“TSUDOJ” meetings for people with dementia and caregivers；an example of best practice by the Alzheimer's Association Japan, Global Dementia Legacy Event Japan, Poster presentation（Tokyo, 2014.11.5-6）
- ・在日イギリス大使館主催Young Leaders Discussion for Innovative Ideas to Address Dementia 参加（British Embassy Tokyo, 2014.11.5）
- ・上越市高齢者見守り支援ネットワーク委員会委員 副委員長（平成23年4月～）
- ・上越市地域包括支援センター協議会 副委員長（平成25年4月～）

2. 講演など

- ・看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座 地域医療を担う多職種連携における看護職の役割 パネルディスカッションコーディネーター，2014年3月8日13時～15時40分，上越市民プラザ第一会議室。
- ・看護研究交流センター 新潟県ナースセンター委託事業 再就職チャレンジコース～最新の医療と看護ケア方法を学ぶ 研修コーディネーター，2014年8月7～11日9時半～16時半．新潟県立看護大学多目的室等。
- ・同研修講師 グループワークフィジカルアセスメント，2014年8月8日9時半～10時半．新潟県立看護大学多目的室。
- ・同研修講師 摂食嚥下障害の理解，口腔ケア援助技術，2014年8月11日12時50分～16時．新潟県立看護大学多目的室。
- ・愛心メモリアル病院看護部研修会 認知症患者の理解と看護 認知症の人と家族を支える，2014年8月22日18時～19時半，愛心メモリアル病院多目的室（札幌市）。
- ・新潟県認知症専門士会第一回上越地区講演会 認知症の人を支える 今，認知症ケア専門士に期待すること，2014年9月20日16時～17時，高陽荘。
- ・看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座 フィジカルアセスメントの基礎とSOAPの実際，2014年10月25日13～16時．新潟県立看護大学基礎看護実習室。
- ・看護研究交流センター出前講座事業 かなやの里更生園保護者会 加齢による食べる機能の障害と口腔ケア，2014年10月5日10時～11時半，デュオセレッソ上越。
- ・看護研究交流センター出前講座事業 上越市柿崎区総合事務所教育・文化グループ柿崎地区公民館 認知症の人と家族を地域で支えるには，2014年10月14日14時～15時15分，柿崎地区公民館。
- ・かなやの里更生園職員研修 加齢による食べる機能の障害と口腔ケア，2014年10月12日10時～11時半，かなやの里更生園スマイリー喫茶。
- ・愛心メモリアル病院看護部研修会 認知症患者の理解と看護 2 認知症の人とのコミュニケーション法，2015年2月27日18時～19時半，愛心メモリアル病院多目的室（札幌市）。

【学内教育活動】

- (1) 学部：老年看護学Ⅰ，老年看護学Ⅱ，老年看護学演習，老年看護学実習，総合実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院：老年看護学特論Ⅰ，老年看護学特論Ⅱ，老年看護学特論Ⅲ，老年看護学特論Ⅳ，老年看護学特別演習Ⅰ，老年看護学特別演習Ⅱ，専門分野別課題実習（老年CNS）Ⅰ，専門分野別課題実習（老年CNS）Ⅱ，専門分野別課題実習（老年CNS）Ⅲ

【学内委員会等の活動】

- ・教務委員会
- ・大学院研究科入学小委員会（副委員長）
- ・情報ネットワーク特別委員会
- ・看護研究交流センター看護職学習支援部門（副委員長）

【外部資金獲得】

なし

飯吉 令枝

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 飯吉令枝, 加賀美亜矢子, 小林綾子, 山田真衣, 後田穰, 岡村典子, 高塚麻由, 河野優子, 菊地美帆, 櫻井信人 (2015): 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要,4,12-16. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

山田正美, 飯吉令枝 (2014.8.10): COPD患者家族の在宅療養支援上の困難と問題解決のための方策, 日本家族看護学会第21回学術集会, 岡山.

片平伸子, 平澤則子, 飯吉令枝他 (2014.9.17): 文献検討の成果を活用した公衆衛生看護学演習プログラムの改善, 第45回日本看護協会—看護教育—学術集会, 新潟.

飯吉令枝, 平澤則子, 藤川あや他 (2014.11.5): 介護予防が必要な高齢者を早期発見するための地域住民による見守り項目の活用可能性, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木.

平澤則子, 飯吉令枝, 片平伸子他 (2014.11.7): 継続訪問実習における学習目標に対する学生自己評価と学びを促すための実習指導の課題, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本地域看護学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・聖路加看護学会
- ・日本ルーラルナーシング学会
- ・日本家族看護学会
- ・日本看護協会

【社会活動】

- ・妙高市介護保険運営協議会委員 (平成18年4月～現在に至る)
- ・上越市建築審査会委員 (平成20年4月～現在に至る)
- ・上越市開発審査会委員 (平成23年4月～現在に至る)
- ・上越市健康づくり推進協議会委員 (平成23年4月～現在に至る)
- ・平成26年度看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会 講師

【学内教育活動】

- (1) 学部: 公衆衛生看護学Ⅱ, 公衆衛生看護学Ⅲ, 地域看護学実習, 在宅看護論実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院: 地域看護学方法論, 地域看護学援助展開論, 地域看護学特別演習Ⅰ, 地域看護学特別演習Ⅱ, 老年看護学特論Ⅱ, 老年看護学特論Ⅲ

【学内委員会等の活動】

- ・実習委員会 (副委員長)

- ・入試広報委員会（副委員長）
- ・災害時看護・支援ワーキング
- ・新潟県立看護大学看護研究交流センター 地域貢献部門（部門長）

【外部資金獲得】

なし

田口 玲子

【研究活動】

1. 原著論文

志田久美子, 渡邊岸子, 田口玲子 (2014) : 看護師へのスピリチュアルケアとしてのディグニティセラピー導入方法の検討, 新潟看護ケア研究学会誌, 1, pp.34-41. (査読有)

柏 美智, 渡邊岸子, 田口玲子 (2014) : 精神疾患患者に行うマッサージの看護ケアとしての位置づけと方法の検討—文献研究から—, 新潟看護ケア研究学会誌, 1, pp.42-52. (査読有)

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

志田久美子, 渡邊岸子, 田口玲子 (2014.10.18.) : 看護師へのスピリチュアルケアとしてのディグニティセラピー導入の試み, 新潟看護ケア研究学会第6回学術集会, 新潟市.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・新潟看護ケア研究学会 (評議員)
- ・日本精神保健看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本カウンセリング学会
- ・日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会
- ・日本心理臨床学会

【社会活動】

- ・新潟県精神保健福祉協会上越支部 平成26年度 評議員
- ・さいがた医療センター 平成26年度 看護研究指導 講師
- ・「看護職のためのホリスティックケアセンター (NHC)」の活動
 - ・グループコーチング講座 (全4回) の企画・運営 (1月11日, 2月8日, 3月8日, 4月11日) 新潟大学駅南キャンパスときめいと
 - ・平成26年度「看護職のための支援講座」の企画・運営 (全4回予定) (11月22日, 12月13日) 新潟大学医学部保健学科
- ・平成26年度日本精神科看護協会新潟県支部精神科看護研修会 看護研究発表会 講師 (10月10日)

【学内教育活動】

- (1) 学部 : 精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院 : 文献講読, 看護倫理特論, がん看護援助展開論Ⅰ

【学内委員会等の活動】

- ・倫理委員会 (副委員長)
- ・ハラスメント防止委員会
- ・教務委員会・カリキュラム検討ワーキング活動
- ・大学院入学小委員会

【外的資金獲得】

なし

高林 知佳子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

高林知佳子,片平伸子,平澤則子,高島葉子,後田穰,小泉美佐子,榎田健,佐藤順子(2014): 県外就業者におけるUターン就職の意向と支援ニーズ- A県における県外就業状況等実態調査を通して-,日本看護学会論文集:看護管理,(44)7-10 (査読有)

片平伸子,高林知佳子,平澤則子,高島葉子,小泉美佐子,後田穰,佐藤順子,榎田健(2014): 県外に就職した卒業生の就職時の看護技術の到達度と支援ニーズ,日本看護学会論文集:看護教育,(44)157-160 (査読有)

高橋亮,清野純子,漆原成彦,奥村真美,山元恵子,田中良,高林知佳子,村田教枝,西坂美沙枝(2015): ラオス都市部近郊の住民の生活習慣病と健康意識および生活行動の現状,佛教大学保健医療技術学部論集,(9)47-57 (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

Akihiro Hashimoto, Naoko Hara, Chikako Takabayashi, Chie Iida, Ayako Kagami, Kiyoko Nakazawa, Chiaki Ishihara, Mayu Takatsuka, Ryoko Kawashima, Mitsutoshi Onigata (February 6,2015) : Finding factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata prefecture. 18th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS(EAFONS). Taipei,

片平伸子,平澤則子,飯吉令枝,高林知佳子,井上智代,野口裕子,藤川あや(2014.9.17): 文献検討の成果を活用した公衆衛生看護学演習プログラムの改善,第45回日本看護学会 看護教育,新潟

高林知佳子 (2014.11.7) : 交代制勤務に従事する看護師が抱く仕事と介護の両立に対する不安と支援ニーズ,第73回日本公衆衛生学会総会,栃木 (査読有)

平澤則子,飯吉令枝,高林知佳子,片平伸子,井上智代,野口裕子,藤川あや (2014.11.7) : 継続訪問実習における学生の自己評価を踏まえた実習方法の改善,第73回日本公衆衛生学会総会,栃木 (査読有)

高林知佳子 (2014.11.30) : 介護をしながら交代制勤務に従事する看護師が抱く仕事と介護の両立に対する不安と支援ニーズ,第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋 (査読有)

5. その他の研究活動

高林知佳子 (2014.7) : 公益財団法人労働問題リサーチセンター労働問題に関する調査研究助成 交代制勤務者における仕事と介護の両立支援に関する調査研究報告書, 1-55.

【学会等における活動】

- 日本公衆衛生学会会員
- 日本看護科学学会会員
- 日本地域看護学会会員
- 日本健康教育学会会員
- 日本生殖看護学会会員
- 北陸公衆衛生学会会員
- ESHRE (European Society of Human Reproduction and Embryology) 会員

【社会活動】

- 富山福祉短期大学非常勤講師 (2010.4~)
- 妙高市こころと命のネットワーク会議委員 (2014.8~)

- ・平成26年度柏崎市健康推進員協議会研修会講師「必見！健康長寿は高血圧予防から～今こそ見直そう！生活習慣～」(2014.4.24)
- ・高田税務署健康づくり講話講師「ぐっすり眠る，すっきり起きる習慣術－朝に強くなる，とっておきの方法－」(2014.6.18)
- ・大浦安福祉まつり講演会講師「スローエイジングな生き方－健やかな人生を送るための大切な習慣－」(2014.8.23)
- ・平成26年度 直江津学びの交流館講座講師「スローエイジングな生き方－健やかな人生を送るための大切な習慣－」(2014.10.8)
- ・平成26年度 中郷区老人クラブ講座講師「スローエイジングな生き方－健やかな人生を送るための大切な習慣－」(2014.11.13)
- ・糸魚川地域在宅医療連携協議会講師「介護は突然やってくる」(2014.11.20)
- ・東頸ブロックケアマネネット研修会講師「ぐっすり眠る，すっきり起きる習慣術－朝に強くなる，とっておきの方法－」(2014.12.19)
- ・平成26年度 板倉区文化講演会講師「スローエイジングな生き方－健やかな人生を送るための大切な習慣－」(2015.3.9)
- ・糸魚川市市民講座（糸魚川市保健センター）講師「介護は突然やってくる」(2015.3.23)
- ・糸魚川市市民講座（青海生涯学習センター）講師「介護は突然やってくる」(2015.3.24)
- ・NPOクリエイティブアクト第6回ラオス国健康診断活動参加（2015.3.26～2015.3.30）

【学内教育活動】

- (1) 学部：公衆衛生看護学Ⅱ，公衆衛生看護学Ⅲ，公衆衛生看護学演習，地域看護学実習，在宅看護論演習，在宅看護論実習，看護研究法，疫学，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習
- (2) 大学院：地域看護学方法論，地域看護援助展開論，地域看護学特別演習，地域看護学特別演習Ⅱ，専門分野別課題実習（地域CNS），専門分野別課題研究（地域CNS），看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

- ・研究推進委員会（副委員長）
- ・教務委員会
- ・紀要委員会
- ・看護研究交流センター看護職学習支援部門

【外部資金獲得】

高林知佳子（研究代表者）：交代制勤務者における仕事と介護の両立支援に関する調査研究，公益財団法人労働問題リサーチセンター労働問題に関する調査研究助成（平成25.8～平成26.7）

高林知佳子（研究代表者），坪倉繁美：介護をしながら働く女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトの規定要因と課題，文部科学省科学研究費基盤研究（C）（平成26～28年度）

後田 穰

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

片平伸子, 高林知佳子, 平澤則子, 高島葉子, 小泉美佐子, 後田 穰, 佐藤順子, 榎田健(2014) 県外に就職した卒業生の就職時の看護技術の到達度と支援ニーズ, 日本看護学会論文集: 看護教育, (44)157-160 (査読有)

高林知佳子, 片平伸子, 平澤則子, 高島葉子, 後田 穰, 小泉美佐子, 榎田健, 佐藤順子(2014) 県外就業者におけるUターン就職の意向と支援ニーズ A県における県外就業状況等実態調査を通して, 日本看護学会論文集: 看護管理, (44)7-10 (査読有)

酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 飯吉令枝, 加賀美亜矢子, 小林綾子, 山田真衣, 後田穰, 岡村典子, 高塚麻由, 河野優子, 菊地美帆, 櫻井信人 (2015): 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 4, 12-16. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

- ・新潟県加茂市鶉森狂疾院(精神医療史) 調査中
- ・新潟県在住外国人のこころのケアについて調査中

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

立命館大学キャリアアドバイザー

【学内教育活動】

- (1) 学部: 精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院: なし

【学内委員会等の活動】

- ・実習委員会
- ・ハラスメント相談員
- ・看護研究交流センター先駆的学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

片平 伸子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

片平伸子, 高林知佳子, 平澤則子, 高島葉子, 小泉美佐子, 後田讓, 佐藤順子, 榎田健(2014): 県外に就職した卒業生の就職時の看護技術の到達度と支援ニーズ, 日本看護学会論文集: 看護教育, (44) 157-160 (査読有)

高林知佳子, 片平伸子, 平澤則子, 高島葉子, 後田讓, 小泉美佐子, 榎田健, 佐藤順子(2014): 県外就業者におけるUターン就職の意向と支援ニーズ A県における県外就業状況等実態調査を通して, 日本看護学会論文集: 看護管理, (44) 7-10 (査読有)

片平伸子, 井上智代, 藤川あや, 平澤則子(2014): 新潟県の訪問看護ステーションにおける災害対策リーフレットの作成, 日本在宅ケア学会誌, 18(1) 91-98 (査読有)

片平伸子, 井上智代, 藤川あや, 平澤則子(2014): 訪問看護ステーションにおける災害対策の実態と相互支援ネットワークについての意向, 日本災害看護学会誌, 16(2): 27-35 (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

片平伸子, 平澤則子, 飯吉令枝, 高林知佳子, 井上智代, 野口裕子, 藤川あや(2014.9.17): 文献検討の成果を活用した公衆衛生看護学演習プログラムの改善, 第45回日本看護学会 看護教育, 新潟

片平伸子, 塚崎恵子 (2014.11.6): 小規模多機能型居宅介護施設における看護師の活動, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木

平澤則子, 飯吉令枝, 高林知佳子, 片平伸子, 井上智代, 野口裕子, 藤川あや(2014.11.6): 継続訪問実習における学習目標に対する学生自己評価と学びを促すための実習指導の課題, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木

片平伸子(2014.11.29): 新聞記事からみた訪問看護師の活動およびその対象, 第34回日本看護科学学会学術集会, 愛知

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本災害看護学会

【社会活動】

- ・在宅看護研修会「在宅ケアシステム論」講師 (新潟県ナースセンター主催)
- ・新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 「実習指導方法論1 (在宅・地域看護学)」講師
- ・再就職支援講習会「介護保険制度, 医療と介護の連携」講師 (新潟県等主催)

【学内教育活動】

- (1) 学部: 在宅看護論, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 地域看護学演習, 地域看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習
- (2) 大学院: 地域看護学特別演習Ⅱ, がん看護援助展開論, 老年看護学特論Ⅲ, 看護研究法, 研究指導補助教員

【学内委員会等の活動】

- ・学生委員会
- ・紀要委員会（副委員長）
- ・研究科委員会
- ・看護研究交流センター地域貢献部門
- ・看護大いきいきサロン 企画運営
- ・災害時看護・支援ワーキンググループ
- ・編入学生コーディネーター

【外部資金獲得】

平成26年度科学研究費補助金（基盤研究C）「小規模多機能型居宅介護事業の特性を活かした看護プログラムの開発」

加賀美 亜矢子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 飯吉令枝, 加賀美亜矢子, 小林綾子, 山田真衣, 後田穰, 岡村典子, 高塚麻由, 河野優子, 菊地美帆, 櫻井信人 (2015): 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要,4,12-16 (査読有)

加賀美亜矢子(2014): レビー小体型認知症に多い幻覚・妄想や睡眠障害への対応, 認知症介護, 15(3), 15-21, 日総研出版 (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

Naoko Hara, Yui Osaka, Ayako Kagami (2014.5.2-3): Needs for the early-onset dementia patients and their family in Japan, 29th International Conference of Alzheimer's Disease International, San Juan, Puerto Rico.

Akihiro Hashimoto, Naoko Hara, Chikako Takabayashi, Chie Iida, Ayako Kagami, Kiyoko Nakazawa, Chiaki Ishihara, Mayu Takatsuka, Ryoko Kawashima, Mitsutoshi Onigata(February 6,2015): Finding factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata prefecture. 18th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS(EAFONS). Taipei,

加賀美亜矢子, 原等子(2014.6.1): 認知症高齢者の下剤による排便と日常生活行動への影響に関する事例検討, 第15回日本認知症ケア学会大会, 東京.

松本奈々, 加賀美亜矢子, 原等子 (2014.6.2): 総合病院(急性期)の認知症看護認定看護師が抱える役割遂行上の課題について, 第15回日本認知症ケア学会大会, 東京.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本認知症ケア学会

【社会活動】

- ・認知症看護認定看護師としての活動
- ・公益社団法人 認知症の人と家族の会 新潟県支部 家族のつどい
- ・上越地域医療センター病院 認知症検討委員会
- ・認知症の看護・介護についての研修
- ・上越地域医療センター病院 院内看護職員研修会, 『認知症の理解とケア』, 上越地域医療センター病院, 上越市. (2014.7.28)
- ・新潟県 病院勤務の医療従事者向け認知症対応能力向上研修, 『対応力編』, 新潟県立中央病院, 上越市. (2014.8.4)
- ・新潟県ナースセンター 平成26年度 再就職支援講習会, 『認知症の理解とケア』, 新潟県立看護大学看護研究交流センター, 上越市. (2014.8.7)

【学内教育活動】

- (1) 学部: 老年看護学Ⅱ・老年看護学演習・老年看護学実習・総合実習・専門ゼミナールⅠ・専門

ゼミナールⅡ

(2) 大学院：老年看護学特別演習Ⅱ・専門分野別課題実習（老年CNSⅡ）

【学内委員会等の活動】

- ・実習委員会
- ・看護研究交流センター 看護職学習支援部門
- ・保健指導員

【外部資金獲得】

認知症高齢者の排便状況に関連した行動心理症状を予防する施設ケアの検討，科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 若手研究(B)（平成24年～平成26年：課題番号24792571）

安藤 亮

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
なし
4. 学会発表
なし
5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本認知症ケア学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本老年泌尿器科学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

- (1) 学部：老年看護学Ⅱ，老年看護学演習，老年看護学実習，総合実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・入試・広報委員会
- ・国家試験対策・就職委員会
- ・看護研究交流センター地域貢献部門

【外部資金獲得】

なし

井上 智代

【研究活動】

1. 原著論文

井上智代, 渡辺修一郎(2015): 農村における健康に資するソーシャル・キャピタルの質的分析—高齢者へのグループ・インタビューを通じて—. 日本農村医学会雑誌63(5): 723-733. (査読有)

2. その他の論文

田辺生子, 井上智代(2014): 要支援高齢者の食行動の現状と影響を及ぼす内容についての質的分析. 日本保健福祉学会誌21(1): 45-56. (査読有)

片平伸子, 井上智代, 藤川あや, 平澤則子(2014): 新潟県の訪問看護ステーションにおける災害対策リーフレットの作成. 日本在宅ケア学会誌18(1): 91-98. (査読有)

片平伸子, 井上智代, 藤川あや, 平澤則子(2014): 訪問看護ステーションにおける災害対策の実態と相互支援ネットワークについての意向. 日本災害看護学会誌16(2): 27-35. (査読有)

3. 著書

井上智代 (2015). 第5章2節 認知症高齢者の地域生活継続に向けた支援, 日本保健福祉学会編集, 保健福祉学 当事者主体のシステム科学の構築と実践 (初版), 92-96. 北大路書房. 京都.

4. 学会発表

井上智代, 渡辺修一郎(2014.11.6). 農村部における健康に資するソーシャル・キャピタルの現状, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木

平澤則子, 飯吉令枝, 高林知佳子, 片平伸子, 井上智代, 野口裕子, 藤川あや(2014.11.6): 継続訪問実習における学習目標に対する学生自己評価と学びを促すための実習指導の課題, 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木

片平伸子, 平澤則子, 飯吉令枝, 高林知佳子, 井上智代, 野口裕子, 藤川あや(2014.9.17): 文献検討の成果を活用した公衆衛生看護学演習プログラムの改善, 第45回日本看護学会 看護教育, 新潟

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会
- ・日本農村医学会
- ・日本保健福祉学会
- ・日本老年社会科学会
- ・日本民族衛生学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本災害看護学会

【社会活動】

- ・社会福祉法人大石福祉会 評議員
- ・長岡市男女平等センター ウィルながおか 専門相談員
- ・上越市食育推進会議委員
- ・上越地域 地域・職域連携推進協議会 委員
- ・上越地域・職域連携看護研修会 助言者

【学内教育活動】

(1) 学部: 公衆衛生看護学Ⅱ, 公衆衛生看護学Ⅲ, 公衆衛生看護学演習, 在宅看護論演習, 地域看

護学実習，在宅看護論実習，総合実習

(2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・研究推進委員会
- ・国家試験対策就職委員会
- ・看護研究交流センター地域課題研究開発部門
- ・看護研究交流センター特別研究部門・地域政策課題

【外部資金獲得】

なし

野口 裕子

【研究活動】

1. 原著論文
なし

2. その他の論文
なし

3. 著書
なし

4. 学会発表

野口裕子,坪倉繁美(2014.11.7):地震災害後健康被害を防ぐための保健師と住民との間のリスクコミュニケーション,第73回日本公衆衛生学会総会,540,栃木.

片平伸子,平澤則子,飯吉令枝,高林知佳子,井上智代,野口裕子,藤川あや(2014.9.17):文献検討の成果を活用した公衆衛生看護学演習プログラムの改善,第45回日本看護学会 看護教育,新潟

平澤則子,飯吉令枝,高林知佳子,片平伸子,井上智代,野口裕子,藤川あや(2014.11.6):継続訪問実習における学習目標に対する学生自己評価と学びを促すための実習指導の課題,第73回日本公衆衛生学会総会,栃木

5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

- ・日本地域看護学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本災害看護学会
- ・日本子どもの虐待防止学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

(1) 学部：公衆衛生看護学Ⅱ, 公衆衛生看護学演習, 在宅看護論演習, 地域看護学実習, 在宅看護論実習

(2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・看護研究交流センター 先駆的学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

真貝 早悠里

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
なし
4. 学会発表
なし
5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

- (1) 学部：老年看護学実習
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

なし

【外部資金獲得】

なし

瀧澤 ひかる

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
なし
4. 学会発表
なし
5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

- (1) 学部：精神看護学演習，精神看護学実習，総合実習
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・看護研究発表会運営委員

【外部資金獲得】

なし

久保野 裕子

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
なし
4. 学会発表
なし
5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

- ・日本産業衛生学会
- ・日本公衆衛生学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

- (1) 学部：公衆衛生看護学演習，在宅看護論演習
- (2) 大学院：なし

【学内委員会等の活動】

なし

【外部資金獲得】

なし

渡邊 隆

【研究活動】

1. 原著論文

Hirohisa Yamada, Shingo Yokoyama, Kenji Tamura, Yujiro Watanabe, Kazuya Morimoto, Tamao Hatta, and Takashi Watanabe (2014) Synthesis and phase relations in montmorillonite-stevensite series under hydrothermal conditions. Clay Science, 18 : 11-18

2. その他の論文
なし

3. 著書
なし

4. 学会発表
なし

5. その他の研究活動
なし

【学会等における活動】

- ・日本鉱物学会
- ・日本粘土学会
- ・日本地学教育学会
- ・日本結晶学会
- ・日本地質学会
- ・日本岩石鉱床学会
- ・日本利佳教育学会
- ・The Clay Minerals Society of America
- ・The Mineralogical Society of London

【社会活動】

- ・上越教育大学経営協議会 委員
- ・(社) 上越社会福祉協議会 理事
- ・(社) 上越老人福祉協会 評議員
- ・(財) 全国科学博物館振興財団 評議員
- ・謙信公アカデミー 評議員
- ・上越市総合計画審議会 委員
- ・坂口謹一郎博士顕彰委員会 委員
- ・上越環境科学センター 評議員

【学内教育活動】

学長特別講義

【学内委員会等の活動】

理事長

学長

【外部資金獲得】

なし

各種委員会等の 活動報告

平成26年度 ハラスメント防止特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎小泉美佐子、○境原三津夫、平澤則子、飯吉令枝、田口玲子、渡辺弘之、
岡村典子、品田英光

事務局：里方寿雄

(ハラスメント防止相談員)

永吉雅人、後田穰、飯田智恵

2. 活動概要

- (1)新入の学生及び教職員に対し、大学におけるハラスメント防止と相談対応のガイダンスを実施して、2年生以上はチラシを配布して周知を図った。
- (2)アカデミック・ハラスメントに関する相談事案が1件（申立人：学生，被申立人：教員）あり、双方の事情聴取を行い、臨時の委員会を7回開始し審議した。結果、ハラスメントとして認定するには至らず、調査報告書をもって学長（理事長）に報告した。

3. 次年度に向けた課題

- (1)引き続きハラスメント防止と相談対応についての周知を図るとともに研修会を実施する。
- (2)ハラスメントの相談があった場合、これに係る委員並びに相談員の対応の在り方を委員会として検討しておく必要がある。必要時、外の研修会を受講させるなどして、相談員等のスキル向上を図る。

1. 委員会構成

委員：◎小泉美佐子、○坪倉繁美、関谷真一、平澤則子、樺沢清史、品田英光

事務局：里方寿雄

2. 活動概要

(1)平成 26 年度自己点検報告書の編集

平成 25 年度に準じて、教員の業績では、【研究活動】：1. 原著論文，2. その他の論文，3. 著書，4. 学会発表，5. その他の研究活動，【外部資金獲得】，【学会等における活動】，【社会活動】，【学内教育活動】，【学内委員会等の活動】の評価項目を設け提出を求めた。また、各種委員会の 26 年度活動総括を収録した。これらは、例年にならってリポジトリに掲載・公表する予定である。

(2)教員評価指針の策定

中期計画に基づいて教員の活動状況を点検・評価する（以下「教員評価」という）にあたり、群馬大学大学院保健学研究科、長野県看護大学を訪問し資料収集を行った。群馬大学における教員評価指針を参考として「新潟県立看護大学における教員評価指針」（委員会案）を策定した。長野県看護大学の訪問においては、教員評価の趣旨、実施手順などについて情報提供頂き、また「教員評価実施基準」、「業績自己申告シート」の資料提供を得た。「教員評価実施要項」、「教員評価実施基準」、「業績自己申告シート」は長野県看護大学を参考にすることとした。

3. 次年度に向けた課題

(1)「新潟県立看護大学における教員評価指針」（委員会案）を年度当初に教育研究審議会の議を経て承認を得る。そのうえで平成 26 年度の活動実績について教員評価を試みる。それまでに、実施要項を定め、データベース入力シートを作成、教員にあらかじめ通知して 10 月くらいに入力を依頼する計画である。必要時、これらの作業を行う組織を設置する。実施後は、評価項目・評価基準、教育・研究・社会貢献・大学運営の 4 領域の重みづけ、評価実施手順、報奨のあり方などについて検討し、28 年度本格実施に活かせるようにする。

(2)上記の教員評価を試行して年度毎に行っている自己点検報告書の記載項目とその書き方について、見出しやナンバリングをはじめ記載方法を統一できる様検討する。

1. 委員会構成

委員：◎橋本明浩、○永吉雅人、小泉美佐子、関谷伸一、中村博生、原等子、品田英光、
諏訪部恭子、里方寿雄

事務局：早川隆、
(オブザーバー) 新井いずみ

2. 活動概要

(1) 主な活動

- ・ 計算機資源利用申請書の改正
- ・ 危機管理体制及び情報管理者の指定(主情報管理者を橋本委員長、副情報管理者を永吉委員と早川庶務係長)
- ・ メーリングリストの見直しと基準の制定
- ・ 学生自習室の利用状態を鑑み、実行部会で見回りを依頼し、実施した。
- ・ 卒業生支援システムの検討を行った。
- ・ プリンタ出力枚数によって指導対象となる学生の検討を行い、これを実施した。
- ・ ホームページのカウンタ
- ・ 広報活動として講習会 Moodle 講習会及びセキュリティ等に関する喚起をメールにて送信した。
- ・ 情報管理・倫理要項の検討を行い、改正を提案した。
- ・ 図書館貸し出しメディアの購入と説明文を作成した。
- ・ 無線 LAN の教職員への開放とセキュリティ対策を実施した。

(2) セキュリティ対策

- ・ Windows8.1 のアップデート対策を行った。
- ・ SSL、TLS 対策 Poodle、Freak、Ghost 等 7 件を実施
- ・ STONE による情報盗聴防止措置をおこなった。

(3) ネットワーク管理

利用申請書の確認を Secure Visor 等により厳密化し、情報管理シールによる明確化をはかることとした。

1. 委員会構成

委員：◎境原三津夫、○岡村典子、中村博生、渡辺弘之、サイモン・エルダトン、
谷内田潤子

事務局：斎藤彰夫、佐藤敏子

2. 活動概要

(1) 国際交流協定覚書締結に関する報告会

平成 26 年 4 月 22 日に、ホーチミン医科薬科大学との間に締結した国際交流協定覚書 (MOU) に関する報告会を開催した。参加者は教職員 19 名、学生 7 名、参加学生の内訳は 1 年生 3 名、3 年生 3 名、4 年生 1 名であった。報告会では学生よりホーチミン医科薬科大学の授業や演習の参加、地域の病院見学の希望があった。

(2) 「ポルティコの広場」における記事掲載について

ホーチミン医科薬科大学との MOU 締結に関して「ポルティコの広場」に記事が掲載された。

(3) ベトナム研修参加学生の選抜

平成 26 年 6 月 10 日に、8 月のベトナム研修に参加する学生の選抜試験が行われ、3 年生 2 名が選ばれた。

(4) ベトナムホーチミン医科薬科大学およびクイホア病院訪問

平成 26 年 8 月 10 日より 18 日の日程で、小泉副学長、渡辺准教授、岡村准教授、谷内田助教、学生 2 名 (3 年生：遠藤、野村) の計 6 名がホーチミン医科薬科大学、ホーチミン人文科学大学およびクイホア病院を訪問した。

(5) ベトナムホーチミン医科薬科大学およびクイホア病院訪問に関する報告会

平成 27 年 2 月 24 日に、平成 26 年 8 月のベトナムを訪問に関する報告会を開催した。谷内田助教より訪問の概要が報告され、続いて参加学生 2 名 (3 年生：遠藤、野村) がホーチミン医科薬科大学およびクイホア病院訪問の様子を報告した。参加者は教職員 27 名、学生 (3 年生) 2 名であった。

(6) 予算執行の状況

① 平成 26 年度予算

海外大学連携事業費 876,000 円

国際交流委員会運営費 54,000 円

② 平成 26 年度予算執行額

海外大学連携事業費 875,999 円 (ホーチミン医科薬科大学等訪問旅費)

国際交流委員会運営費 54,000 円 (ビデオカメラ購入等)

平成 26 年度 倫理委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎境原三津夫、○田口玲子、水口陽子、高柳智子、野村憲一、藤田尚

事務局：佐藤敏子

2. 活動概要

(1) 倫理審査について

倫理審査件数 42 件

(2) 研究倫理に関する研修会について

「疫学研究に関する倫理指針」と「臨床研究に関する倫理指針」が統合され、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が平成 26 年 12 月 22 日に公布された。新統合指針に関する研修会の開催を検討したが、年明けから各学会にて研修会が多数開催されたこともあり、今年度は開催せず来年度に企画する予定である。

(3) 新統合指針施行にともなう準備

新統合指針では、倫理委員会に外部委員を複数名入れることになっており、平成 27 年度より上越教育大学の教員を複数名追加することになった。

(4) 予算の執行状況

平成 26 年度予算額 計 50,400 円

平成 26 年度執行額 計 0 円

1. 委員会構成

委員：◎平澤則子、○高柳智子、関谷伸一、加城貴美子、石田和子、野村憲一、水口陽子、
原等子、田口玲子、高林知佳子、大久保明子、高島葉子

事務局：星野史

2. 活動概要

(1)カリキュラムに関する事項

3年編入学生の履修について、①卒業所要単位を126単位から131単位へ、②既修得単位認定は「基礎科目及び専門支持科目から26単位」を「基礎科目及び専門支持科目から32単位」に変更し、履修規程等の改正を行った。

平成28年度カリキュラム改正に向けて現行カリキュラムの評価を行った。教員、学生に対し本学の基礎科目、1年次で学ぶ専門科目・専門支持科目の満足度・要望に関する調査を実施し、教養科目及び初期教育の充実を図るための基礎資料とした。

次年度から専門ゼミナールⅠ・Ⅱは全学の教員で担当することとし、3年次後期に専門ゼミナール希望調査を実施し領域への振り分けを行った。

(2)履修・単位認定に関する事項

3年次編入学生5名について既修得単位認定を行った。学年に応じた適切な履修計画が立てられるように教学ガイダンス計画に基づき4月と10月に履修指導を行った。

履修届による申請をせずに受講し試験を受けた学生の取り扱いについて検討し、新潟県立看護大学履修規程に基づき、単位取得できないことを確認した。

(3)シラバスに関する事項

公正な成績評価の実現に向けて各科目の学習目標や成績評価基準のモデルを示し、科目担当者にシラバス作成の依頼を行った。

(4)成績評価に関する事項

11月と3月に履修状況、成績・単位取得状況を確認し、成績不良者について学年担任に修学指導を依頼した。GPA2.0未満の学生は、前期8名（1年生4名、2年生1名、3年生3名）、後期11名（2年生10名、3年生1名）であった。

(5)時間割に関する事項

教員数や実習室の広さなど運用上の課題により、複数の領域で既定よりも多くの回数で演習を組んでいることが確認された。今後は学生の自宅学習時間も考慮し規程数に近づける方向で検討することを、次年度の申し送り事項とすることとした。

(6)看護研究発表会に関する事項

12月15日・16日に看護研究発表会を開催した。前年度に比べ外部からの参加者が少なかったことについては、今後は関係した各施設に学生が直接コメントを依頼する等の広報を工夫することとした。

3. 次年度に向けた課題

看護学演習の回数を規程数に近づけるため、運用上の課題解決に向けた検討が必要である。看護研究発表会への外部参加者を増やすための方策を検討する。

平成 26 年度 実習委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎石田和子、○飯吉令枝、酒井禎子、岡村典子、後田穰、小林綾子、山田真衣、
加賀美亜矢子、中澤紀代子、高塚麻由
事務局：永井誉雄

2. 活動概要

(1) 臨床実習施設の選定、交渉及び調整に関する事項

① 実習懇談会（担当：酒井、山田）

平成 26 年 5 月 28 日（水）15:00～17:00、実習施設 10 施設 48 名、大学 38 名、計 86 名の出席により実施した。臨床講師への委嘱状の交付の後、昨年度の実習総括や今年度の実習計画を説明するとともに、昨年度より試行した「看護技術到達度リスト」の結果報告、教務委員会から看護研究のカリキュラム上の位置づけ等について説明を行った。

② 実習指導者研修会（担当：酒井、中澤）

・第 7 回研修会

平成 26 年 5 月 28 日（水）13:30～14:50「実習指導、どんな工夫していますか？ー学生も指導者も楽しく学べる実習にするために」をテーマにグループワークを行った。参加者は、実習指導者 41 名、教員 32 名の計 73 名であった。参加者のアンケートでは、他の施設の指導者や教員との交流ができ、指導方法や悩み・工夫などを聴けて良かった、有意義だったとの評価が得られた。

・第 8 回研修会

平成 26 年 10 月 18 日（土）13:00～14:30「少子化社会の学生の特性に合わせた看護教育」をテーマに、聖路加国際大学看護学部長・研究科長菱沼典子教授による講演会を開催した。ホームページや看護研究交流センターからの案内文の送付も行い公開講座として行った結果、学外者 46 名（うち実習施設 26 名）、学内教員 29 名の計 75 名の参加であった。アンケートでは、約 9 割が講演内容を「よかった」「活用できる」と評価しており、現代の学生の特性を知り、実習指導に活かしたいという意見が聞かれた。

③ 実習配置（担当：後田、中澤）

後期の領域別実習に先立ち、平成 26 年度 3 年次看護学実習配置表を作成するとともに、平成 27 年度の年間実習計画を検討した。平成 27 年度の領域別実習の開始日は 8 月 31（月）とし、連休明けとなる 9 月 24 日（木）～25（金）は実習日より除外することとした。

④ 総合実習（担当：飯吉、加賀美）

今年度の総合実習は一部パッケージ化したものの専門ゼミとの区別がきちんとされておらず、例年通り領域ごとに学生が希望する施設での総合実習を行った。次年度に向けては、完全パッケージ化とし、11 月より各領域でコースを協議し準備を進めた。学生にむけて 2 月 3 日総合実習オリエンテーションを実施し、希望調査票を 2 月 20 日〆切（メール添付にて提出）、3 月 5 日に発表し次年度に備えた。

(2) 臨床実習の実施方法に関する事項

① 実習オリエンテーション（担当：後田、中澤）

平成 26 年 7 月 31 日（木）13:00～14:00 に、3 年次領域別実習オリエンテーションを実施した。

実習の概要や領域別のオリエンテーションの他、看護技術到達度リストの使用方法についても説明を行った。また、1、2年次の基礎看護学実習前には、情報倫理に関するオリエンテーションを実施した。

②技術到達度リスト（担当：小林、山田、加賀美、飯吉）

到達度リストの項目、到達度の見直しを行い改訂した。今年度は、2年生の基礎看護学実習Ⅱの前と、3年生の領域別実習前に説明し実習で使用した。集計は、3年生の領域別実習終了後、4年生の実習終了後に行い、集計結果は掲示で学生に知らせた。次年度は、1年次のふれあい実習から配布し、全学年にわたり使用していく予定である。

(3)臨床実習要項に関する事項

①実習要項（担当：加賀美、高塚）

5月27日の実習懇談会に合わせ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、精神看護学実習の実習要項を各250部作成した。個人情報保護に関する記載を改訂した臨地実習の概要を、2月の基礎看護学実習Ⅱにオリエンテーションに合わせて準備した。

(4)その他

①継燈式（担当：岡村、小林、高塚）

平成26年7月2日（水）13:00～14:10、新潟県立看護大学第1・2ホールにおいて平成26年度継燈式を実施した。参加者は2年次生93名、保護者121名（概数）、来賓・教職員29名であった。現在、次年度開催に向けて1年生の実行委員10名が準備を進めている。

②ユニフォーム（担当：飯吉、岡村）

平成25年度と同様に吉崎商店に依頼し、入学時オリエンテーション期間（4月9日）に採寸を実施した。採寸日に合わせカーディガン、ナースシューズも注文した。作成は5月連休明けからにしてもらうよう依頼し、学生への販売は7月29日に行った。

③実習物品購入（担当：後田）

前年度同様に12万円分の消耗物品を購入し、実習病院ごとに配分した。主な物品はハンドソープ、イソジンガーグル、酒精綿、ペーパータオルであった。また、実習科目ごとにサージカルマスク及びプラスチックグローブを数箱単位で配分した。

平成 26 年度 学生委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎酒井禎子、○関谷伸一、山田正実、永吉雅人、片平伸子、エルダトン サイモン、
竹原則子、北村千章、天谷まり子
事務局：関 浩樹

2. 活動概要

(1) 学生自治会活動支援（担当：関谷、山田）

主な自治会活動として、4/26（土）球技大会、5/21（水）自治会総会、11/1（土）桜蓮祭を実施した。桜蓮祭は、「笑顔～Share from the Heart～」をテーマとし、来場者約 700 名であった。全国公立大学学生大会（10/11-12 日：神戸市）に災害看護サークル 2 名、顧問 1 名が参加した他、高等教育コンソーシアムにいがた看護系大学タスクフォース（1/27）に自治会役員 1 名、他 2 名（3 年生）の学生が参加した。

(2) 学生との意見交換会（担当：片平、竹原、酒井）

12/17（水）14:30～16:00 に、学生 27 名、大学教職員 22 名が出席して行い、議事のまとめを教職員および学生に配布、掲示した。

(3) 学生生活実態調査（担当：永吉、竹原、天谷）

10 月に調査を行い、集計結果を学内 HP に掲載するとともに、ポスター掲示や教授会での資料配布により学生の生活指導・学習環境改善の資料として活用した。

(4) 学生の地域交流支援（担当：永吉、エルダトン、北村）

五郎八姫のお輿入れ行列（高田開府 400 年記念イベント）（7/6）、「高田祇園まつり民謡流し」（7/25）、「新幹線開業日イベント」（3/14）に参加した。

(5) 学生のボランティア活動支援（担当：片平、エルダトン）

25 件のボランティア募集があり、掲示や口頭での呼びかけを行った。学外活動届・教員の報告より把握した活動は 29 件、参加学生数は延べ 239 名（1 月 28 日現在）であった。

(6) 新入生オリエンテーション（担当：エルダトン、竹原、山田、北村、天谷）

4/11（金）～12（土）にかけて学内およびアスティくろひめで実施した。新入生 97 名、上級生 10 名（2 日目のみ）、教職員 18 名が参加した。現在、27 年度オリエンテーションを計画中である。

(7) 教育環境の向上他（担当：関谷）

6 月に省エネルギーへの取り組みと自習環境について学生との意見交換を行った。

(8) その他

- ・計 218 名の学生が奨学金を利用。成績不良者に対して担任より個別指導を行った。
- ・学年担任・学校医・保健指導員・カウンセラーとの学生相談関係者会議を 2 回実施。
- ・学生が実習時以外で事故が発生した場合の連絡経路を作成した。
- ・成績優秀賞 2 名の他、優秀課外活動賞として「広告研究サークル」の推薦があった。

3. 次年度に向けた課題

オフィスアワーの効果的な活用と、学生相談関係者の連携の強化が課題である。

1. 委員会構成

委員：◎野村憲一、○高林知佳子、徐淑子、井上智代

事務局：関口詩織

2. 活動概要

(1) 研修会の開催について

- ・研究スタート支援として、教職員と大学院生を対象に全 2 回の研修会を開催した。

2014 年 12 月 10 日 「説得力のある研究計画書の書き方～統計手法に焦点を当てて～」

2015 年 3 月 18 日 「論文で使われる日本語の表現」

講師は野村 憲一（研究推進委員会委員長）が担当した。

- ・紀要委員会と合同で、2015 年 3 月 2 日に「査読プロセスで一皮むける！ - ちょっとしたヒント 教えます - 」と題する研修会を開催した。

(2) 科学研究費などの外部資金に関する情報提供と応募情報

◆ 科研費の情報提供について

- ・科研費以外の研究助成公募の案内があった 33 件をメール配信し、教員に情報提供した。
- ・2014 年 8 月 9 日に早稲田大学で開催された科学研究費の説明会に、委員長の野村が出席し、帰学後、本学で説明会を行った。なお、応募件数は 46 件（うち分担者申請 1 件）であり、昨年の 29 件から 17 件増加した。

◆ 科研費等の採択状況

- ・科研費の採択は合計 18 件（新規 5 件、継続 13 件）であった。【参考】昨年 17 件
- ・科研費以外の外部資金の採択は 3 件（うち寄付金 1 件）であった。【参考】昨年 1 件

(3) 予算の執行

平成 26 年度予算額 計 50,400 円

平成 26 年度執行額 計 25,920 円

- ①「研究者のための助成金応募ガイド 2014」2 冊、4,884 円、
- ②3/2 研修会費用（紀要委員会との折半分・講師謝金旅費）17,280 円、
- ③DVD-ROM 2,316 円

3. 次年度に向けた課題

本年度は、研究成果の公正・的確な学内評価システムの構築にむけて、他大学の評価指標等を調査・検討した。次年度は、本学での評価方法を確立できるよう努力が必要である。

1. 委員会構成

委員：◎水口陽子、○野村憲一、小泉美佐子、平澤則子、高島葉子、徐淑子、谷内田潤子、
天谷まり子
事務局：秋本聖子

2. 活動概要

(1) 授業評価アンケート

① 授業評価アンケート調査方法（全委員）

- ・実施方法について検討し、授業評価科目を拡大し、基礎ゼミナール及び専門ゼミナールを含めることとした。
- ・授業評価アンケート内容を検討し、アンケートに自由記載欄を設けて実施した。評価結果の分析と教員への公表のあり方について検討し、授業評価アンケートの評価結果を、自由記載部分を含めて、担当教員にフィードバックした。
- ・全 80 科目（常勤 60 科目、非常勤 20 科目）で授業アンケートを実施した。前年度の 56 科目より実施科目が増加した。

② 授業評価アンケート調査集計（担当：平澤、高島）

- ・授業満足度の大学全体平均は 4.3 と前年度より 0.1 ポイント上昇し、前年に引き続き 4.0 以上の水準を維持した。

(2) FD 研修会（担当：小泉、水口）

① F D ・ S D 研修会

- ・2月26日（木）に、「大学における学生相談の充実」をテーマとする F D ・ S D 研修会を企画し実施した。2部構成で、第一部「大学における学生相談体制充実への取り組み」（講師：西村俊夫先生・上越教育大学副学長）、第二部「学生相談の基礎と倫理」（講師：多門敬子先生・新潟県立看護大学学生相談カウンセラー）で実施した。
- ・参加状況は、計 41 名（教員 32 名、職員 9 名）であり、昨年度 28 名より増加した。参加者へのアンケート結果では、研修会は有意義か、今後の教育活動に活かせると思うかの設問において、「とても有意義」「やや有意義」および「とても思う」、「やや思う」をあわせて、いずれも 9 割以上であった。

(3) F D マザーマップに関する看護学教育ワークショップへの参加・報告

① F D マザーマップに関する看護学教育ワークショップへの参加

- ・ F D マザーマップの活用に関連するテーマ（『看護系大学教員の能力開発とキャリア支援～ F D マザーマップの活用を通して～』）とする千葉大学看護学教育ワークショップ（10月20日（月）～22日（水）に水口（1日目）・高島（3日間）が参加した。

② 看護学教育ワークショップへの参加報告

- ・ F D 委員対象に、 F D マザーマップに関する看護学教育ワークショップへの参加委員が報告会を行い、 F D マザーマップに記入する体験を含めてワークショップの情報を共有した。

3. 次年度の課題

- (1) 授業評価結果を授業改善に活かす方法について、他大学の例も参考にしながら、学生へのフィードバック方法を含めて検討し、本学において役立つものは実施していく。
- (2) 全体的に実施科目が増え特に非常勤講師の実施率が改善した。引き続き、教員への周知と呼びかけを行い、協力を促していく。また、基礎ゼミナールなどは、科目単位であるのか、科目全体であるのか検討が必要である。
- (3) 今年度は、FD マザーマップの活用方法及び課題の検討にとどまったが、次年度はFD マザーマップに基づく調査を本学教員を対象に実施していく。
- (4) 次年度のFD・SD 研修会については、FD マザーマップに関するテーマもよいのではないかという意見があった。

1. 委員会構成

委員：◎高島葉子、○大久保明子、酒井禎子、渡辺弘之、井上智代、中澤紀代子、石原千晶、
安藤亮、
事務局：羽深由紀子

2. 活動概要

(1) 国家試験対策の企画および実施について

① 国家試験対策講義

・看護師・保健師・国家試験対策については、教職員へのガイダンス、学生へのガイダンスを行い、さらに7月～11月にかけて国家試験対策講義を実施した。一部欠席等が気になる学生もいたが、大多数の学生が出席であった。助産師の対策講義は助産学が実施した。

② 国家試験模擬試験のサポート

・看護師は5回、保健師は3回、助産師は4回の業者模試を実施、委員会で各1回ずつの模試を実施した。結果をふまえ、ゼミおよび国家試験対策委員会で継続的にフォローした。

③ 国家試験激励会および国家試験受験状況及び結果

		受験者数	合格者数	合格率	全国合格率 (新卒のみ)	全国合格率 (既卒含む)
看	新卒	92	92	100.0%	95.5%	90.0%
	既卒	3	1	33.3%		
保	新卒	92	92	100.0%	99.6%	99.4%
	既卒	2	1	50.0%		
助	新卒	4	4	100%	99.9%	99.9%

(2) 進路指導について

昨年との主な変更点は、各学年の進路指導の目標を明確にし、昨年度3回の実施していた進路ガイダンスを5回に変更した。学生の進路選択に役立てられるように企画・実施し、アンケート結果では、進路選択に役立ったとの回答が多かった。

(3) 求人訪問対応と進路情報の提供

- ・60件の求人訪問に対する対応を行った。前年度より20件少なかった。
- ・就職情報コーナー、Vドライブの求人施設情報などにおいて情報提供していること周知。

(4) 進路状況調査

- ・進路ガイダンス、ゼミ等を通じて学生に周知し、91名の進路決定届が提出された。

3. 次年度に向けた課題

(1) 国家試験対策講義の早期開始と学生の希望する重点科目の検討

(2) 学生の学習進度に応じた5回の進路ガイダンスの継続と周知と参加の促し。

(3) Vドライブの求人施設情報の存在を知らない学生もおり、周知の方法、就職情報を利用しやすい環境づくり。

1. 委員会構成

委員：◎中村博生、○野村憲一、○飯吉令枝、山田正実、飯田智恵、渡邊千春、安藤亮、
川島良子、天谷まり子、風間みえ
事務局：山本清司、永井誉雄、田村則宏

2. 活動概要

(1) 入試実施本部会議に関する事項

- ①推薦・社会人入学試験、一般入学試験（前期、後期日程）、3 年次編入学試験、科目等履修生入学試験の実施計画の提案、入試問題出題計画、入試説明会、試験実施、合格判定会議、合格発表等の計画を提案し実施した。
- ②平成 28 年度入学試験の実施日程を提案した。
- ③平成 27 年度 3 年次編入試験筆記試験を改新して実施した。

(2) 大学入試センター試験の実施に関する事項

大学入試センター試験入試担当者連絡協議会への参加（2 回）、試験会場設定大学連絡協議会への参加（1 回）、大学入試センター試験学内説明会（1 回）、リスニングの説明会 2 回を実施した。
不参加者のための DVD を作成、従事者に周知を図った。

(3) 入試問題の作成、管理、実施に関する事項

- ①本学の選抜試験の作成、管理、実施は、ガイドライン、チェックリストにそって厳正に行った。
また、大学入試センター試験についても厳重に保管、実施した。
- ②本学入学試験と大学入試センター試験の実施の反省と今後の課題
大きな問題が無かったので、来年度も柔軟に対応できるよう準備していきたい。

(4) 学生募集に関する事項

- ①学校説明会（25 回（含資料参加））、出前講義（8 回）、学内見学（8 回）、オープンキャンパス（2 回、参加者合計 365 名）を行った。
- ②広報誌の作成
広報誌（ポルティコの広場）、大学案内（ガイドブック）の作成、各種広報誌（上越かわらばん、NOSAI）への投稿を計画し執筆依頼をした。

(5) 大学のホームページに関する事項

大学ホームページの管理及び運営を行った。4 月より新しいホームページをアップで広報活動を行った。教員紹介の内容を 4 月に更新した。

(6) 予算

大学広報のためののぼり、うちわなどを購入した。

3. 次年度に向けた課題

受験倍率が昨年度に比べ飛躍的に伸びた。今後も多くの受験生に興味を持っていただくよう本学の魅力を広報して、受験倍率の向上に貢献するよう活動をしたい。

1. 委員会構成

委員：◎関谷伸一、○橋本明浩、藤田尚、山田真衣、石原千晶、高塚麻由、
事務局：関浩樹、吉原貴子

2. 活動概要

(1) 管理運営

図書館費 10,045 千円（前年度 - 1,116 千円）、雑誌購読費 3,935 千円、図書購入費 1,020 千円

- ①入館者数、貸出冊数、文献依頼件数などの利用統計を月別にまとめ分析した。
- ②各種協議会・研修会等への参加
公立大学協会図書館協議会総会（関係長）
新潟県大学図書館協議会総会（関谷委員長、関係長）
公立大学協会図書館協議会関東・甲信越地区館会議（吉原司書）
オープンアクセスサミット 2014（高塚委員）
JAIRO Cloud 講習会（吉原司書）
新潟県大学図書館協議会研修会（関係長）
- ③上越教育大学附属図書館と共同で蔵書交換展示会を実施した。期間：第 1 回 6 月 10 日～7 月 18 日、第 2 回 11 月 10 日～12 月 25 日。交換展示図書：上教大から各 50 冊、看護大から各 50 冊。
- ④蔵書点検：図書館 3 月 2 日～6 日、研究室 1 月 5 日～30 日。点検対象資料 75,539 件、新規紛失 11 件（累積 12 件）
- ⑤図書館の環境整備：昨年度実施した閲覧機の仕切り板とノートパソコン用のコンセント設置が好評であったので、さらに増設。
- ⑥蓋付容器に限り飲み物の館内持込みを認可。
- ⑦電動ブラインドを修理。

(2) 広報活動

「図書館だより」No. 35 を 7 月に、No. 36 を 1 月に発行。

学外配布先：県内大学図書館・病院を中心に 68 機関。

(3) 図書

- ①教員推薦図書：9 月～10 月に 1 回、予算額 90 万円、163 冊の推薦。
- ②学生リクエスト図書：9 月～10 月に 1 回、予算額 10 万円、74 冊のリクエスト。
- ③リクエストボックス：随時受付し、64 冊購入。
- ④電子ブック 16 件を購入。
- ⑤本年度の選書
 - ・本館開設以来の目標であった蔵書の洋書比率 3 割達成を断念し、むしろ需要と必要性の高い和書を整備する方向に転換した。
 - ・学生のリクエストや貸出が少ないため、関心を高める対策の一つとしてリクエストのしやすさを改善した。利用促進については別途対策を検討する。
 - ・学生リクエストをすべて受け入れ、蔵書整備に参加している意識を高めた。
 - ・「重点収集図書」として大学の国際交流事業に即した図書整備を実施した。

- ・年度末の補正予算で追加図書購入した。

(4) 雑誌

①購読雑誌の見直し

- ・12月に全教員に対し、雑誌の購読希望調査を行った。
- ・洋雑誌：過去3年間の費用対効果の低いもの、Webで閲覧できるものなど計11誌を中止。その結果、購読洋雑誌は冊子体3誌、電子ジャーナル63誌、計66誌。
- ・和雑誌：34誌を新規購読とし、計96誌。

(5) 蔵書の更新・除籍に関すること

①寄贈図書(3月20日現在)：図書293冊，視聴覚0巻

②除籍：図書582冊，視聴覚0巻

(6) オンラインデータベース

①EBSCO利用講習会を開催した。

②リンクリゾルバ(Serials Solutions 360Link)を導入し、検索の利便性を高めた。

(7) リポジトリ「にこナース」

新規登録：紀要第4巻、研究論文2件。

その他 21件(自己点検評価報告書，平成25年度センター活動報告書，看護大通信12件，広報誌等7件)

3. 次年度に向けた課題

- (1)「図書館だより」の原稿依頼において、学生とのコミュニケーションが取りづらく、改善が必要。
- (2)洋雑誌については電子化が進んだので、和雑誌についてもさらに電子化を進めたい。

1. 委員会構成

委員：◎高柳智子、○片平伸子、関谷伸一、高林知佳子

事務局：吉原貴子

2. 活動概要

(1)新潟県立看護大学紀要第 4 巻の編集および発行

投稿促進を目的に投稿受付期間を 1 か月に延長した(昨年度までは 2 週間)。査読の結果、報告 1 件、資料 2 件の計 3 論文を掲載することができた。発行形態は第 3 巻までと同様に電子ジャーナルであり、平成 27 年 2 月 13 日(金)に本学リポジトリに登録した。発行費用(電子版組作業)は、46,656 円であった。

(2)研修会の開催

査読システムを伴う投稿経験が比較的少ない若手研究者の論文投稿促進を図る目的で、研修会「査読プロセスで一皮むける!~ちょっとしたヒントおしえます~」を研究推進委員会と共同で開催した。講師は、北川公子氏(共立女子大学教授)、高島葉子氏(本学教員)、山田正実氏(本学教員)の 3 名であり、平成 27 年 3 月 2 日(月)に第 1 ホールにて行った。参加者は 36 名(内訳 教員 32 名、職員 2 名、大学院生 1 名、地域課題研究共同研究者 1 名)。参加者事後アンケートでは、全体的に高評価を得た。

(3)新潟県立看護大学紀要投稿要項の改正

平成 25 年 4 月 1 日に改正された投稿要項の見直しを行い、倫理的配慮ならびに文献の記載に関する内容を一部改正した(平成 27 年 4 月 1 日から施行)。

3. 次年度に向けた課題

(1)投稿促進策

今年度は、投稿期間を 1 か月に拡大したが、投稿数の増加には結びつかなかった。3 月の比較的参加人数が見込める日時を考慮して査読プロセスに関する研修会を開催したので、次年度はその効果を期待したい。また、4 月の大学院ガイダンスにて、委員長が本学大学院生にも投稿資格があることを周知し投稿の呼びかけを行う予定である。

学内教員より随時受付・査読を望む声があるが、査読者の負担や編集作業の複雑化が危惧されたため、次年度は試験的に投稿受付期間を 5 月連休明け~8 月中旬に拡大することを検討中である(査読は投稿受付期間締め切り後に開始)。

(2)紀要発行費用の予算化

今までも予算化を要望してきたが、第 4 巻においても予算は組まれず、事務局との調整により発行費用を支出した。次年度の予算化に向けて要望書(理由、希望額と算出根拠)を提出した。

4. その他

平成 26 年 1 月~12 月の本学紀要第 1~3 巻の閲覧は総計 4442 件、ダウンロードは総計 21434 件であった。

1. 委員会構成

委員：◎小泉美佐子、○加城貴美子、坪倉繁美、水口陽子、石田和子、高柳智子、平澤則子
事務局：山本誠司、関弘樹

2. 活動概要

平成 26 年度大学院の教務運営に関して研究科委員会と連動した年間活動計画を立て活動した（別紙参照）。

年度初めに役割分担を行った：シラバス（石田）、便覧（小泉・平澤）、時間割（坪倉・高柳）、論文発表会（加城・水口）

(1) 新入生及び学年ガイダンス

入学式当日、新入生 9 名に対してガイダンス及び学年ガイダンスを行った。

(2) 新潟県立看護大学大学院看護学研究科修士学位論文審査内規について一部改正

第 6 条 2 倫理委員会の審査は、研究科委員会（改正前：研究計画書審査委員会）の承認を得た後に行う。とした。

(3) 平成 27 年度大学院入学生から適用の教育課程についての検討

① 教育課程の検討

● 授業科目枠組みを一部変更

- ・ 看護政策論・看護教育学：共通基盤分野→基盤看護分野
- ・ 看護情報統計学：基盤看護分野→共通基盤分野
- ・ 基盤看護分野の看護学研究法は、現行 60 時間（2 単位）であるが、30 時間（2 単位）講義科目として、研究課題の探求から研究計画立案までの演習は専門分野の各専門領域科目群に特別演習科目として 30 時間（2 単位）位置付ける

● 基盤看護分野に看護コンサルテーション論、共通基盤分野に病態生理学、フィジカルアセスメント、臨床薬理学の科目の新設

● セメスター制を廃止し、配当年次を 1-2 年次の前期・後期、あるいは通年と表示

② 修了所要単位数の検討

研究コース、CNS コースの専門分野毎に修了所要単位の基準を定め、大学院学則、大学院履修規定を改正し、便覧にアップすることにした。

(4) がん看護 CNS コース 26 単位から 38 単位移行に伴う教育課程認定申請

一般社団法人日本看護系大学協議会が認定するがん看護専門看護師教育課程 26 単位から 38 単位移行に伴う認定申請を 6 月に行い、結果、申請どおり認定を受けることができた。付随して共通科目（26 単位・科目内容・科目単位の変更）で、「看護学研究法」2 単位、「看護コンサルテーション論」2 単位について申請どおり認定された。また、老年看護学 CNS 教育課程の実習科目名称変更について報告し受理された。

(5) 大学院を新たに担当する教員の選考

第 9 回委員会において、大学院を新たに担当する教員の選考を行った。

【研究指導教員】

野村憲一教授

岩永喜久子教授（平成 27 年 4 月 1 日就任予定）

田口玲子准教授

【研究指導補助教員】

大久保明子准教授

山岸まなほ准教授（平成 27 年 4 月 1 日就任予定）

【授業担当者（単位認定者）】

岩永喜久子教授：看護教育学

大久保明子准教授：小児看護学特論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学特別演習

【授業分担者】

山田正美准教授：成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学特別演習

飯田智恵講師：成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学特別演習

石岡幸恵助教：がん看護学特別演習Ⅰ・Ⅱ、がん治療看護介入演習Ⅰ・Ⅱ、がん高度実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、専門分野別課題実習（がん CNSⅠ・Ⅱ）

なお、がん看護 CNS コース 26 単位から 38 単位移行に伴う教育課程認定申請において経歴書を提出した授業担当者・分担者は日本看護系大学協議会の一括認定をもって認定されたとして学内選考は行わないこととした。

(6) 平成 26 年度学位論文審査及び修士論文発表会開催

7 名から論文提出があり（うち 4 名は研究コース，3 名は CNS コース），論文審査委員会を組織して審査・口頭試問を行った。結果、全員合格と認定され修了要件を確認して研究科委員会の承認を経て 7 名全員が修了となった。3 月 6 日（金）13 時～16 時 30 分 第 1 ホールにおいて修士論文発表会を開催した。

3. 次年度に向けた課題

- ・地域看護学につき CNS コース 38 単位に移行するか，研究コースのみにするか決定し 28 年度教育課程改正を行う。
- ・がん看護 38 単位の実施に伴い時間割編成が火曜日，土曜日開講では難しくなっている。カリキュラム改正に伴う履修のさせ方、時間割編成を P D C A サイクルで検討する。

平成26年度教学小委員会年間日程

日程	研究科全体の動き	日程	教学小委員会
4月		4月	
2日	第1回大学院研究科委員会 ・大学院非常勤講師 ・大学院授業科目及び担当教員	8日	オリエンテーション M2:14:00～ M1:15:00～ ・時間割、便覧、シラバス、成績表配付 ・学位論文提出までの日程通知
25日	・履修届の提出と取りまとめ ・主指導者届出提出期限	16日	第1回教学小委員会 ・年間予定及び役割分担
5月		5月	
7日	第2回大学院研究科委員会 ・開講科目確認 ・非常勤対応 (受講者が1名の場合)	21日	第2回教学小委員会 ・新入生主指導者の確認 ・履修届の提出、履修状況の確認 ・時間割未開講科目(非常勤)の対処 (第1、2セメスター)
6月		6月	
4日	第3回大学院研究科委員会	18日	第3回教学小委員会 ・前期成績取りまとめ時期 →成績提出時期告知
7月		7月	
2日	第4回大学院研究科委員会	16日	第4回教学小委員会
29日	・がん看護CNS教育課程認定申請		
8月		8月	
28日	・8月入試		
9月		9月	
3日	第5回大学院研究科委員会 ・大学院科目等履修生入学試験の概要	17日	第5回教学小委員会 ・次年度時間割の検討
10月		10月	
1日	第6回大学院研究科委員会 ・科目等履修生の募集	15日	第6回教学小委員会 ・前期成績取りまとめ ・後期修士論文計画書の審査に関する事項
11月		11月	
5日	第7回大学院研究科委員会	19日	第7回教学小委員会 ・次年度非常勤講師要望調査 ・学位論文提出予定者確認 ・次年度時間割、シラバス原稿提出日程
12月		12月	
3日	第8回大学院研究科委員会 ・次年度時間割、シラバス 原稿提出の告示	17日	第8回教学小委員会 ・次年度非常勤講師選考 ・学位論文審査委員選出 ・発表会の企画立案・告示
1月		1月	
7日	第9回大学院研究科委員会 ・修士論文審査委員体制告示	21日	第9回教学小委員会 ・中期計画当年度実績及び次年度計画検討 ・修士論文発表会の企画 ・次年度非常勤講師選考 ・後期成績提出日程の検討
26日	・学位論文審査・最終試験(2/16まで)		
2月		2月	
2日	・2月入試	18日	第10回教学小委員会 ・修士論文審査・修了予定者の単位取得状況 ・論文発表会に関する検討と告示 ・次年度時間割、シラバス最終確認 ・次年度担当専任教員の選考審査 ・次年度非常勤講師選考
4日	第10回大学院研究科委員会 ・次年度シラバス、時間割等の検討 ・次年度非常勤講師選考		
19日	・論文公開(2/25まで)		
26日	第11回大学院研究科委員会(臨時) ・論文審査・修了判定		
3月		3月	
4日	第12回大学院研究科委員会 ・次年度担当専任教員の選考審査 ・次年度非常勤講師承認	6日	修士論文発表会
6日	・修士論文発表会	18日	第11回教学小委員会 ・後期及び通年科目単位の取得状況 ・次年度学位論文提出までの日程検討
13日	学位記授与		

平成 26 年度 大学院入学小委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎坪倉繁美、○原等子、中村博生、田口玲子、徐淑子
事務局：山本清司

2. 活動概要

(1) 入学者の選考に関する事項

①平成 27 年度大学院入学者の選考試験の実施状況

入 試	試 験 日 合格発表日	受験者数	合格者数	入学手続者数
8 月	試 験 日：平成 26 年 8 月 28 日（木） 合格発表日：平成 26 年 9 月 9 日（火）	4 名	4 名	4 名
2 月	試 験 日：平成 27 年 2 月 2 日（月） 合格発表日：平成 27 年 2 月 9 日（月）	9 名	9 名	9 名

②科目等履修生入学試験

平成 26 年度 10 月 1 日入学者の募集を行ったが、応募者は無かった。

事前面談・出願資格審査：平成 26 年 6 月 9 日～7 月 11 日

平成 27 年度 4 月 1 日入学者の募集を行ったが、応募者は無かった。

事前面談・出願資格審査：平成 26 年 11 月 6 日～12 月 9 日

(2) 入学定員充足と選抜方法の見直しの取り組み

- ①大学が主催する公開講座や研究発表会の機会、病院や看護系関連団体へ直接出向き、広報並びに入試相談を行った。
- ②全国の大学、新潟県内の病院・保健所・看護師養成所、上越地区居宅系サービス施設・事業所、長野県北部の病院・保健所、合計約 700 か所へ募集要項・パンフレットを送付した。
- ③社会人入学制度の充実を図るために、在学生に対しては「新潟県立看護大学の社会人入学制度に関する調査」を、他大学に対しては「看護系大学院における社会人入学受入に関する調査」を行った。
- ④アドミッションポリシーにかなった学生を確保するために面接評価の視点を見直した。

3. 次年度に向けた課題

- (1)平成 27 年度は 31 名在学する予定であり、充足率は 103%である。大学院開設依頼 100%を初めて上回ったので、継続して 100%充実を図る努力が必要である。
- (2)平成 26 年度の調査（在学生と他大学に実施）を活かし社会人入学制度の充実をはかる。

1. 構成

構成員：◎山田正実、飯吉令枝、高島葉子、片平伸子、石岡幸恵、内藤みほ

2. 活動概要

(1) 避難所開設・運営支援訓練

7月22日、地域・施設管理者・市（避難所初動対応職員）の顔合わせに代表が出席した。8月30日にはH26度総合防災訓練・避難所開設訓練（市主催）に、代表、他1名が参加した。大学施設の鍵管理者の到着までの避難場所の検討、子安保育園の園児と職員の避難計画の確認等の課題が残った。

(2) 支援物資の準備、保管および管理

事務室前の支援者用のリュックおよび大会議室倉庫内の保管物品の点検を行った。使用期限切れのウェットティッシュは破棄し、常備品のリストから除いた。エコトイレット（ダンボールトイレ）3台を購入し、倉庫内に保管した。

(3) 学生および学内教職員への研修活動

①学生研修：新入生ガイダンスでは、災害時の行動の基本、防災・減災のための備え、震度6以上の地震発生時の大学への安否連絡方法を説明した。また、全学部生を対象に、8月7日「被災者への癒しとしてのハンドマッサージ」研修会を実施した。1年生4名、2年生9名、3年生12名、合計25名の参加があった。災害支援への関心を高めること、被災者と関わる具体的な手段を見につけることを目的として、ハンドマッサージ手技を学ぶとともに、被災者とのコミュニケーションを模擬体験するなかでその向き合い方を考えもらう研修内容とした。アンケートからは、被災者とのコミュニケーションには難しさを感じながらも、ハンドマッサージは機会があれば実施してみたい、災害や災害ボランティアには関心が高まったという回答が多く見られ、目的はほぼ達成できた。

②教職員研修：10月29日「身近なもので防災・応急処置」を実施した。参加者は教員5名、事務職員6名、合計11名であった。内容は、代用日用品の作成、応急処置を体験した。身近なものが役立つこと、工夫もさまざまあることを実感してもらえた。

③啓発活動：災害WGつうしん1部を発行し、研修会報告を大学HPに1回掲載した。

(4) 他団体との災害関連連携事業への参加

市主催の避難所開設運営にかかる3者の顔合わせ、および防災訓練への参加（上記）

(5) その他

予算執行報告：研修用消耗品、災害対策カードゲーム、避難所開設シミュレーションゲーム、エコトイレット等の購入にあてた。

3. 次年度に向けた課題

本WGの活動は今年度で終了となる。発展的に災害時看護支援特別委員会が設置されるので、今後も学生・教職員を対象にした研修会や啓発活動を継続し、防災・減災への関心を高める活動が期待される。また、災害発生時には支援活動が安全かつ円滑に実施できるように、平常時より学内での情報提供や物品管理を行い、さらに地域住民や行政、関連機関との連携を深めていく。